

(同主題同内容同程度)

道徳教育は、「特別の教科 道徳」（以下 道徳科）を要として学校の教育活動全体を通じて行います。児童の道徳性に関わる実態、学校の道徳教育推進上の課題、社会的な要請、家庭や地域の期待などを踏まえ、学校の教育目標との関わりにおいて道徳教育を充実させることが求められます。そのための指針となるものが道徳教育の全体計画です。複式学級を有する学校という特性を生かし、以下の点に配慮した全体計画を作成します。

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育は、総則に示されている目標を目指して行います。そのためには各学校の具体的な道徳教育の重点を設定することが必要です。複式学級を有する小学校では、過半数に位置することが多く、小規模であるという特性をもつことから、特に学校や地域、児童の実態と課題、教職員や保護者の願いを把握しやすいと考えられます。それらを十分考慮して、目指す児童像を明確にし、重点目標を設定することが大切です。

校長の方針の下に、道徳教育推進教師を中心として全教師で全体計画を作成します。学校の道徳教育の全体計画や道徳教育に関する諸活動等の情報を公表し、家庭や地域と連携を図ります。家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得るなど、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ります。



2 同主題同内容同程度（A・B年度方式）による年間指導計画作成の際の留意点

道徳科の内容は、道徳教育の目標を達成するために、内容項目を4つの視点からとらえ、低・中・高学年に分けて示されています。このことから第1・2学年、第3・4学年、第5・6学年と2つの学年が同時に学習する複式学級にあっては、同主題同内容同程度（A・B年度方式）で年間指導計画を作成することができます。そして、実際の授業では、学年差による個人差の大きな異年齢集団であることに留意しながら、1つの学年より人数の多い2つの学年からなる集団で、多くの意見を聞きながら学習を進めることができます。これにより、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたりできるというよさがあります。

(1) 6年間を見通し、学年差に配慮しながら内容項目や主題（ねらいと教材）を配列する

道徳科の学習では、学校の教育活動全体で行う道徳教育との関連を明確にし、児童の発達段階に即しながら、道徳性を養うことが大切です。そのためには、道徳の内容項目のすべてについて、確実に指導することができる見通しのある計画を作成し、年間指導計画に基づく指導をします。

道徳の内容については、下の表のように4つの視点から分類構成されています。

道徳の内容項目の数

	1・2年	3・4年	5・6年
A主として自分自身に関すること	5	5	6
B主として人との関わりに関すること	4	5	5
C主として集団や社会との関わりに関すること	7	7	7
D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	3	3	4
計	19	20	22

1年間で標準時数 35 時間（第1学年は 34 時間）の道徳科においては、学校の重点目標に沿って、低・中・高学年、それぞれ2つの学年を見通した指導を工夫することが必要です。

教科書については、上学年の教材は文章量が多いなど、下学年の児童にとって理解の難しい場合があるので、2つの学年分の資料をA年度とB年度の2年間に配列する際には以下の点に留意します。

- ・ 1年間ですべての内容項目を取り上げ、残りの時間を自校の道徳教育の重点項目にあてること。
- ・ 2つの学年で計画的に学習ができるよう同じ時期に同じ内容項目を設定すること。
- ・ 4月は特に下学年に配慮し、理解しやすい教材を取り扱うこと。
- ・ 児童の発達段階や特性等を考慮し、情報モラルに関する指導を充実すること。
- ・ 社会の持続可能な発展などの現代的な課題も取り扱うこと。

(2) 各教科等、体験活動等（地域の伝統行事や集団宿泊活動、自然体験活動）との関連を図る

複式学級を有する小学校では、各教科等において学年の目標、内容、順序によらない年間指導計画が立てられていることが多くあります。そこで、各教科等において道徳教育に関わる指導が適切に行われるよう、全体計画別葉が重要です。別葉を活用することで、道徳科の指導と各教科等における指導の時期を重ねるなどの工夫ができ、より効果的な指導が可能になります。また、豊かな自然環境や古くから伝わる伝統行事等を生かし、体験活動で学んだことを道徳科で補充・深化・統合することで、道徳教育の充実を図ることができます。

(3) 教科書や「道徳読み物資料集」「私たちの道徳」「しまねの道徳」を効果的に使用する

道徳科の授業を行う際の主たる教材として、検定教科書を使用することになりました。また、学習指導要領解説において、道徳教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要となると示されています。これを踏まえ、教科書や「道徳読み物資料集」「私たちの道徳」「しまねの道徳」等を2つの学年にわたって計画的に活用します。教科書の無償給与に伴い「私たちの道徳」の配布はなくなりますが、文部科学省のホームページからダウンロードして、引き続き使用できます。文部科学省の「道徳読み物資料集」は、平成23年3月に作成された教材で、第1・2学年（8話）、第3・4学年（9話）、第5・6学年（12話）が掲載されており、学習指導要領の趣旨を生かした教材とその活用例が示されています。

また、島根県教育委員会から平成26年度には「しまねの道徳（小学校高学年）」、平成27年度には「しまねの道徳（小学校中学年）」が配布されました。児童が郷土を愛する心を育みながら道徳の学習ができる特色ある教材です。児童、学校、地域の実態に応じて計画的に活用します。

いずれにしても、教師が特定の価値観を児童に押し付けたり、児童が主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりするのはなく、児童が道徳的価値について主体的に考えることができるよう問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れるなど、教材に応じて効果的な学習を設定することが必要です。

(4) 小規模校のよさを生かした家庭や地域社会との連携

小規模校では、授業の実施や地域教材の開発や活用などに、家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得やすい

ことが強みです。例えば、地域の専門家に授業に参加してもらったり、授業公開日には家庭や地域の人々に道徳科の授業に参加してもらったりすることも考えられます。



(5) 隣接校との集合学習の検討

極小規模の学校の場合、2つの学年合わせて2、3名の複式学級があります。また、欠学年が生じ、1学級1名の単式学級となる学級もあります。

そこで、極小規模の学級において隣接校との集合学習が考えられます。ただし、道徳科の指導は温かい人間関係があつてこそ効果を発揮しますから、安心して発言できる人間関係づくりをした上で授業をする必要があり、チーム・ティーチングにより協力的な指導を行うことが求められます。

集合学習は思いつきではなく、年間指導計画に位置付け、計画的に取り組む必要があります。各校の道徳教育全体計画を踏まえ、事前に十分に協議した上で授業に臨むことが大切です。

(6) 校内の協力的な指導などについて

学級担任だけでなく校長や教頭などの参加による指導や、他教師とのチーム・ティーチングなどの協力的な指導や、教員が得意分野を生かした指導を行うなど、小規模校ならではのよさを生かして教職員が協力して指導ができるよう年間指導計画を工夫します。

3 実際の指導にあたっての工夫

- 下学年児童が上学年児童の前でも自分の考えが自由に発言できるような環境づくりを心がけます。
上下学年の区別なく、話し合える学級経営が大切です。
- 2つの学年の生活経験の違いを生かし、多様な価値観を引き出すことが大切です。
- 教材を提示するときには、下学年に対して漢字の読みや言葉の意味などについて配慮する必要があります。視覚や聴覚に訴える変化のある資料は理解を促すのに有効です。
- 少人数であるために、多様な考えを引き出すことが難しいこともあります。指導者は、児童一人一人の実態をつかみ、意図的な指名も入れながら授業を進めます。
- 極小の学級においては、多様な道徳的価値に触れることが難しい時もあります。そのような場合には、例えばキャラクターの発言として児童に触れさせたい道徳的価値を提示するなどの工夫をします。
- 小規模校では、家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得やすいことから、家庭や地域の人々による授業参加も考えられます。例えば、「私たちの道徳」（文部科学省）には、家庭や地域との連携による活用事例があります。第3・4学年には「共に助け合って生きる（教材名）」、第5・6学年には「かけがえのない命（教材名）」などがあり、「私たちの道徳 小学校 活用のための指導資料」（文部科学省）を参考にして授業づくりができます。
- 道徳科の評価については、個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた個人内評価を行います。また、単式の学級の場合と同様に児童の実態を十分に把握することが基本です。特に2つの学年が同時に学習を進める場合は、上学年、下学年における児童の生活経験の差や少人数の利点を生かし、児童の実態に応じた適切な指導と評価を工夫していくことが大切です。

低学年道徳科（同主題同内容同程度）年間指導計画（配当表）（案）

【A年度】

【B年度】

月	主題名・内容項目	教材名 教○年…○年生教科書 読…道徳読み物資料集 わ…私たちの道徳		月	主題名・内容項目	教材名 教○年…○年生教科書 読…道徳読み物資料集 わ…私たちの道徳	
4	あいさつパワー B 礼儀	おもいきって言って ごらん	教2年	4	あいさつパワー B 礼儀	あいさつでしあわせ に	教2年
	がっこうたんけん B 感謝	ありがとう、ごめんせ	教1年		あいてのきもちを考 学校たんけん		教2年
1年生の導入期は、特に資料を理解しやすく提示する配慮が必要です。							
5	きそくたたく C 規則の尊重	るっぺ			じ規則の尊重	あそびのあそび	読
	あかるいところで A 正直，誠実	お月さまがみている	教2年	5	しょうじきにすごす A 正直，誠実	ぼくはずかしいや	教1年
	ただしいことはすす んで A 善悪の判断，自律， 自由と責任	ぼくはいかない	教1年		わがままな気持ち	ぼんたと かんた	わ
	いのちを 大切に D 生命の尊さ	ハムスター ん			いられ	わきだした水	教1年
6	じぶんのまちのかが やき C 伝統と文化の尊重 国や郷土を愛する態度	ぼくのまちも、ひかっ てる	教2年	6	ふるさとに親しみを もって C 伝統と文化の尊重 国や郷土を愛する態度	ぎおんまつり	わ
	自分でやることは しっかりと A 善悪の判断，自律， 自由と責任	小さな力をつみか さね ～二宮金次郎～	わ		自分の力で A 善悪の判断，自律， 自由と責任	シロクマのクウ	読
	いのちのたんじょう D 生命の尊さ	おとうとのたんじょ うび	教2年		生きものにやさしく D 生命の尊さ	虫が 大すき	わ
	がいこくのひととな かよく C 国際理解，国際親善	エマさんのこたえあ わせ	教1年		スポーツでなかよし C 国際理解，国際親善	オリンピックとバラ リピックのはた	教2年
	なかよしでいたい B 友情，信頼	ともだちをしんじる	教2年	7	合同ボランティア清掃活動等、 近隣の学校との合同行事に合 わせ、それに関連した内容項目 を年間指導計画に位置付けた 場合、集合学習を行うこともで きます。		
	わがままをしない A 節度，節制	かぼちゃのつる	教1年				
9	みんなのために働く C 勤労，公共の精神	わたしたちも仕事が したい	教2年	9	おもいやりのところ B 親切，思いやり	ぐみの木と小鳥	教2年
	あいてのきもちにな って B 親切，思いやり	おとしよりといっし よに	教1年		しょうじきなひとは どんなひと A 正直，誠実	きんのおの	教1年
	すなおに のびのび と A 正直，誠実	お月さまと コロ	わ				

高学年道徳科（同主題同内容同程度）年間指導計画（配当表）（案）

【A年度】				【B年度】				
月	主題名・内容項目	教材名 教〇年…〇年生教科書 わ…私たちの道徳 読…道徳読み物資料集 し…しまねの道徳		月	主題名・内容項目	教材名 教〇年…〇年生教科書 わ…私たちの道徳 読…道徳読み物資料集 し…しまねの道徳		
4	多くのささえに感謝し、それにこたえる B 感謝	ありがとう上手に	教5年	4	多くのささえに感謝し、それにこたえる B 感謝	土石流の中で救われた命	教6年	
	自分の特徴を見て A 個性の伸長	年度始めは下学年にとって上学年の資料の理解が難しいことがあります。資料の提示には配慮が必要です。				それが	教5年	
	たがいに信頼し、学び合って B 友情、信頼	幸せコアラ ※情報モラル	読		たがいに信頼し、学び合って B 友情、信頼	知らない間の出来事 ※情報モラル	読	
5	法やきまりを守り、 C 勤労、公共の精神	情報モラルに関しては、学校や児童の実態に応じて計画的に進めます。					教5年	
	誠実に明るいところで A 正直、誠実	見えた答案	教5年	各校で扱っている教科書、「道徳読み物資料集」、「しまねの道徳」、「私たちの道徳」等から資料を選択し、年間指導計画に位置付けます。		教6年		
	自他の生命を尊重して D 生命の尊さ	その思いを受けついで	わ		守る	し		
6	家族のしあわせのために C 家族愛、家庭生活の充実	おばあちゃんのさがしもの	教5年	6	家族のしあわせのために C 家族愛、家庭生活の充実	お父さんのおんとう	教6年	
	くじけない心 A 希望と勇気、努力と強い意志	将棋の道を歩く	し		希望と勇気をもってくじけずに A 希望と勇気、努～	ヘレンと共に	わ	
	郷土や国を愛する心を C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	人間をつくる道	わ		郷土を愛する心 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	馬入れをなくすな	し	
	自由と責任 A 善悪の判断、自律、自由と責任	修学旅行の夜	教6年		自由と責任 A 善悪の判断、自律、自由と責任	遠足のこどもたち	教5年	
7	差別やへんげんのない公正、公平な態度で C 公正、公平、社会正義	転校性がやってきた	教5年	7	差別やへんげんのない公正、公平な態度で C 公正、公平、社会正義	田中正造	教6年	
	自然を守る D 自然愛護	愛華さんからのメッセージ	教6年		自然を守る D 自然愛護	イルカの海を守ろう	教5年	

15 外国語活動（平成 30 年度・31 年度移行期間用）

（同単元同内容）

1 年間指導計画を作成するに当たっての留意点

外国語活動及び平成 32 年度から実施となる外国語科の目標は、より弾力的な取扱いができるよう、学年ごとではなく、それぞれに 2 学年間を通した目標となっています。この目標を踏まえ、内容も 2 学年を通じて指導するものとして示されており、児童の実態に応じて指導内容を設定し、必要な内容を繰り返し指導するなど、柔軟に指導することが適当であるとされています。コミュニケーションを図る素地や基礎となる資質・能力を育成することが目標であるので、より人数の多い集団で活動できる同単元同内容（完全 1 本案または A・B 年度方式、もしくはその折衷案）で教育課程を編成して学習することで目標を達成しやすくなると考えられます。

年間指導計画の作成にあたっては、基本的には、学年による経験差に応じた同単元同内容異程度（完全 1 本案・くりかえし案）と、2 学年とも同じ評価規準で活動する同単元同内容同程度（A・B 年度方式）の折衷案の作成が考えられます。

授業を実施するに当たっては、児童理解や学習集団作り等が求められるため、外国語活動、平成 32 年度から実施となる外国語科ともに学級担任の教師の存在は欠かせません。しかしながら、活発なコミュニケーションの場の設定、国際理解教育の推進、また教科化に対応するための専門性の重視等を考えると、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材の協力や専門性を有する教師の指導や校内指導体制の充実を図ることが大切です。その上で、教育課程や指導方法の工夫を行います。

なお、この手引きでは、平成 30 年度と平成 31 年度の移行期間中において文部科学省作成の「Hi, friends! 1、2」、そして新教材「Let's Try! 1、2」「We Can! 1、2」を用いた年間指導計画を作成する際の留意点等をお伝えします。

（1）初めて英語と出合う学年の学習意欲に十分配慮する

【平成 30 年度】

- ・平成 30 年度に初めて英語と出合う学年は、第 3 学年、第 4 学年、第 5 学年です。英語への興味・関心、そして意欲を高めることができるよう、丁寧な指導が求められます。
- ・第 3 学年と第 4 学年は、「Let's Try! 1」から始め、その後「Let's Try! 1、2」の単元を配列する方が望ましいと思われます。
- ・第 5 学年は、外国語活動を 1 年間経験している第 6 学年と学習を始めることになります。第 5 学年が「英語は難しい」というような苦手意識をもたないように、「Hi, friends! 1」から始め、その後「Hi, friends! 1、2」「We Can! 1、2」の単元を配列する方が望ましいと思われます。

【平成 31 年度】

- ・平成 31 年度に初めて英語と出合う学年は、第 3 学年のみです。第 3 学年が「英語は難しい」というような苦手意識をもたないように配慮をします。
- ・第 5 学年は外国語活動を経験しています。第 6 学年とともに「We Can! 1」から始め、その後「Hi, friends! 1、2」「We Can! 1、2」の単元を配列する方が望ましいと思われます。

（2）2 年間の移行期間の学習内容を十分に理解する

【平成 30 年度の第 3・4 学年】

- ・文部科学省が、高学年との接続の観点から最低限必要な移行措置内容を示しています。（1）で

述べたように、「Let's Try! 1」から始め、その後「Let's Try! 1、2」の中から移行措置内容を踏まえた単元配列にします。

- ・第4学年は、平成31年度には外国語科の内容を学習することになるので、第3学年及び第4学年の移行措置内容を全て学習する必要があり、扱う単元がどうしても多くなります。児童の実態に即して時数を配当したり、単元を効果的に関連付けたりといった工夫をし、児童に過度な負担がかからないようにします。また、共に学んでいる第3学年にも、扱う語彙数を調整するなどして負担の軽減に努めます。

【平成30年度の第5・6学年】

- ・文部科学省が、中学校との接続の観点から最低限必要な移行措置内容を示しています。「Hi, friends! 1」から始め、その後「Hi, friends! 2」「We Can! 1、2」の中から移行措置内容を踏まえ、単元を配列します。また、平成29年度に扱った「Hi, friends! 1、2」の単元と照らし合わせ、効果的に学習が進むよう配列します。
- ・第6学年は、平成31年度には中学校に進学するので、第5学年及び第6学年の移行措置内容を全て学習する必要があり、第4学年と同様、扱う単元がどうしても多くなります。児童の実態に即して時数を配当したり、単元を効果的に関連付けたりといった工夫をし、児童に過度な負担がかからないようにします。また、共に学んでいる第5学年にも、扱う語彙数を調整するなどして負担の軽減に努めます。

【平成31年度の第3・4学年】

- ・第3学年にとって初めての活動で、第4学年にとっては平成30年度に学習した内容となるので、「Let's Try! 1」で始めた後は、「Let's Try! 1、2」の中から第3学年の移行措置内容を中心とした単元配列にします。
- ・1単位時間の中に帯活動を適宜取り入れ、英語表現に慣れ親しむことができるようにします。

【平成31年度の第5・6学年】

- ・第5学年は、第4学年の時に、1年間、外国語活動を経験しています。また、第6学年は、第5学年の時に、1年間、外国語活動を経験し、外国語科の内容を学習しています。それぞれの学年の経験を踏まえながら、第6学年が平成30年度に学習した内容と重ならないよう、「We Can! 1」で始めた後は、「Hi, friends! 1、2」「We Can! 1、2」の中から第5学年の移行措置内容を中心とした単元配列をします。
- ・1単位時間の中に帯活動を適宜取り入れ、英語表現に慣れ親しむことができるようにします。

(3) 単式・複式を繰り返す学級での学習内容を確認する

- ・単式・複式を繰り返す学校において、単式学級の第3学年と第4学年が一緒に、また単式学級の第5学年と第6学年が一緒に活動する、合同学習も可能です。しかしながら、移行期間の2年間については移行措置内容を十分に確認し、学年別指導と合同学習を効果的に取り入れて進めることが大切です。
- ・合同学習を取り入れる場合には、単式学級であっても該当学年の教材のみでなく、第3・4学年であれば「Let's Try! 1、2」の2冊、第5・6学年であれば「Hi, friends! 1、2」「We Can! 1、2」のそれぞれを2冊持たせることで、学習がスムーズに進むようにすることが可能です。ただし、平成32年度からは、第5・6学年は教科化に伴い、教育課程と教科書の無償給与について注意する必要があります。

(4) 同単元同内容異程度による指導

- ・発達段階や既習内容を踏まえ、目標を上学年と下学年で違うものにして指導を行うことも効果的です。例えば、学級の構成が変わった4月に、第5学年の単元目標を「進んで、簡単な自己紹介をしようとする。」、第6学年の目標を「好きなことなどを含めて自分のことを伝え合おうとする。」と設定し、同じような活動でも目指す単元のゴールの姿を異なるものにするすることで、各学年の児童にとって達成感のある学習にすることができます。

2 実際の指導に当たっての留意点

複式学級を有する小規模校で外国語活動を行うに当たって、次のような長所と短所が考えられます。

【長所】

- ・児童一人当たりの英語発話量が多い。
- ・授業者やALTが、個別に指導したり評価したりできる時間が長い。
- ・児童一人一人の興味・関心や発達段階に応じた言語活動の設定がしやすい。
- ・上学年を学習モデルとして生かすことができる。

【短所】

- ・お互いのことをよく知っていることから、言語活動の必然性をもたせるのに工夫が必要である。
- ・言語活動の相手に限りがあり、様々なコミュニケーションを行うことが難しい。
- ・上学年を中心に活動すると、下学年にとって難しい内容になる場合がある。

複式学級における外国語活動の指導に当たっては、これらの長所や短所を踏まえ、次のような点に配慮しながら学習活動を行うことで、複式学級のよさを生かした指導が可能となります。

(1) 指導体制の充実と工夫を図る

- ・ALT等とのチーム・ティーチングを行う時には、複式学級についてきちんと説明し、それぞれの学年に応じた関わり方をしてもらうよう打ち合わせをします。
- ・小規模校で教師同士の連携が図りやすいというよさを生かし、例えば振り返りカードを共通なものにする等、情報交換を積極的に行います。

(2) 2学年で学習していることに配慮する

- ・下学年が慣れてきたように見えても、2学年をひとくくりにして捉えるのではなく、下学年の既習内容や発達段階を十分に考慮します。
- ・上学年をデモンストレーション等でモデルとして生かします。
- ・同単元同内容で単元目標や評価規準は同じであっても、上学年と下学年で扱う語彙数を調整するなどし、児童一人一人が達成感のある学習になるようにします。

(3) 質の高い言語活動を目指す

- ・小規模校でお互いのことをよく知っており、分かりきった答えを尋ね合う言語活動になる場合がありますが、構成が毎年変わる学級という特性などを生かし、必然性のある言語活動を設定するようにします。
- ・友達同士やALTだけでなく、担任以外の教職員や保護者、地域の人々の言語活動に参加してもらうことで、様々なコミュニケーション活動を設定することができます。

A～Eの記号について	
A-	〔平成30年度：6年〕
B-	〔平成30年度：5年、平成31年度：6年〕
C-	〔平成30年度：4年、平成31年度：5年〕
D-	〔平成30年度：3年、平成31年度：4年〕
E-	〔平成31年度：3年〕

- ・「授業で扱うページ例」をすべて扱う必要はありません。 ・教材にない言語活動を取り入れることも可能です。
- ・この年間指導計画は、単式学級の計画をもとに、平成30年度は下学年を中心とした単元配列となっています。

使用教材	単元	タイトル・題材	表現（児童の発話例）	語彙（児童が使う語彙例）	単元目標（現行の外国語活動の観点）	時数	主な活動例	授業で扱うページ例	配慮事項
新 3	1	Hello! あいさつをして友達になろう	Hello. Hi. I'm (Hinata). Goodbye. See you.	挨拶 (hello, hi, goodbye, see you) friend, I, am	【コ】進んで、友達と挨拶をして、自分の好みなどを伝え合おうとする。 【備】挨拶の言い方に慣れ親しむ。 【気】様々な挨拶の仕方があることに気付く。	1	・映像資料を視聴し、世界には様々な言語があることを知る。 ・名前を言って挨拶をする。	【新3】U 1 p2・3 p5【Activity】 *指導編 (p6) の「指導者の表現例」を参照し、児童が日常的に外国語にふれる機会をもつ。	・同学年とともに、初めて外国語活動と出合う単元となる。本単元を1単位時間扱いとするため、これ以降の時間でも丁寧に名前を言って挨拶をする活動を通行う。 ・How are you? I'm (happy). の表現に出合わせ、本単元以降も毎回これらの表現に十分慣れ親しむようにする。
新 3	3	How many? 数えてあそぼう	How many (apples)? (Ten) (apples).	many 数 (0～30)	【コ】進んで、数を数えたり答えたりしようとする。 【備】0～30の数の言い方や数の数ね方に慣れ親しむ。	1	・じゃんけんで勝った数を数えたり、身の回りの物の数を数えたりする活動等を通して、0～30の数を数えたり答えたりする	【新3】U 3 p10・11	・本単元では、1～20までを学習することとなっているが、ここでは0～30までの数を扱う。
新 3	4	I like blue 好きなものをつたえよう	I like (blue). Do you like (blue)? Yes, I do. / No, I don't. I don't like (blue).	like, do, not, don't, too 色 (red, blue, green, yellow, pink, black, white, orange, purple, brown) スポーツ (soccer, baseball, basketball, dodgeball, swimming) 飲食物 (ice cream, pudding, milk, orange juice) 果物・野菜 (onion, green pepper, cucumber, carrot) rainbow	【コ】進んで、好みを数ねたり答えたりして伝え合おうとする。 【備】色の言い方や、好きかどうかを数ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 【気】好きな物について多様な考え方があることや、音声やリズムについて日本語（外来語）と英語の違いに気付く。	3	・映像資料を視聴し、世界の子どもの描く虹の絵を見て、色（表現）の違いに気付く。 ・友達の良い嫌いを予想してインタビューする。 ・自分の好きなものを言って自己紹介をする。	【新3】U 4 ・p4・15 ・p16 【Let's Listen 1】 ・p17	
新 4	2	Let's play cards. 好きな遊びを伝えよう	How's the weather? It's [sunny / rainy / cloudy / snowy]. Let's (play cards). Yes, let's. Sorry.	天気 (weather, sunny, rainy, cloudy, snowy) 状態・気持ち (hot, cold) 動作 (look, put, point, play) on, let's, today 身体部位 (hand, leg) 遊び (tag, jump rope, bingo, game) outside, inside	【コ】進んで、友達を自分の好きな遊びに誘おうとする。 【備】遊び（動作を含む）や天気の言い方、遊びに誘う表現に慣れ親しむ。 【気】日本の遊びと世界の遊びの違いを通して、多様な考え方があることとに気付く。	2	・映像資料を視聴し、世界や日本各地の子どもの遊びについて知る。 ・好きな遊びを数ねたり答えたりする。 ・自分の好きな遊びや天気を言って、誘う。	【新4】U 2 ・p6・7 ・p8 【Let's Listen 1】 ・p9 【Let's Listen 3】 【Activity】 *指導編 (p11) 「指導者の表現例」参照。	・4年の教材なので、扱う語彙は、児童の実態を踏まえて選択する。 ・本単元から、授業の始めに天気表現に慣れ親しませる。 How is the weather today? It's～.
新 4	5	Do you have a pen? おすすめの文具セットをつくろう	Do you have (a pen)? Yes, I do. / No, I don't. I have / don't have (a pen). This is for you.	身の回りの物 (glue stick, scissors, pen, stapler, magnet, marker, pencil sharpener, pencil case, desk, chair, clock, calendar) 状態・気持ち (short)	【コ】進んで、文房具などの持ち物について数ねたり答えたりして伝え合おうとする。 【備】文房具など学校で使う物の言い方や、持ち物について数ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 【気】身の回りの物について、英語の音声やリズムなど日本語との違いに気付く。	3	・文房具についてやり取りをし、自分の文房具セットを作る。 ・身近な人のために文房具セットを作り、誰のためにどのようなセットを作ったかを紹介する。	【新4】U 5 ・p18・19 ・p20 【Let's Listen】 ・p21 *指導編 (p23) 「指導者の表現例」参照。	・4年の教材なので、扱う語彙は、児童の実態を踏まえて選択する。
新 3	6	ALPHABET アルファベットとなかよし	(The "A" card), please. Here you are. Thank you. You're welcome.	the, card, alphabet, please, here, thank, welcome, book, drum, fish, gorilla, hat, ink, jet, king, monkey, notch ock, pig, queen, rabbit, sun, tree, umbrella, violin, watch, box, yacht	【コ】進んで、自分の姓名の頭文字を伝え合おうとする。 【備】活字体の大文字とその読み方に慣れ親しむ。 【気】身の回りには活字体の大文字で表されているものがあることに気付く。	2	・映像資料を視聴し、大文字の様々な表示を見て何を表しているかを考える。 ・児童用テキスト表紙から大文字を探す。 ・自分の姓名の頭文字を伝え合う。	【新3】U 6 ・p22・23 ・p25 *指導編 (p27) 「指導者の表現例」参照。	・本単元は、第3学年が国語科でローマ字を学習してから行うようにする。
新 4	8	This is my favorite place. お気に入りの場所をしようかいしよう	Go straight. Turn [right / left]. Stop. This is (the music room). This is my favorite place. Why? I like (music).	favorite, place, my, our, go, why, straight 学校・教室等 (classroom, restroom, science / music / arts and crafts / computer / cooking / room, [school nurse's / school principal's / teachers'] office, entrance, library, gym, playground)	【コ】進んで、自分が気に入っている場所を伝えようとする。 【備】教科名や教室名、案内の表現に慣れ親しむ。 【気】世界と日本の学校生活の共通点や相違点に気付く。	2	・映像資料を視聴し、世界の子どもの自分たちの学校生活の共通点と相違点を知る。 ・校内を案内する。 ・ペアで校内のお気に入りの場所について伝え合う。	【新4】U 8 ・p30・31 ・p33 *指導編 (p33) 「指導者の表現例」参照。	・4年の教材なので、扱う語彙は、児童の実態を踏まえて選択する。
新 4	9	This is my day. ぼく・わたしの一日	I wake up (at 6:00). I have breakfast (at 7:00). I go to school. I go home.	日課 (wash my face, go to school, go home, brush my teeth, put away my futon, check my school bag, leave my house, take out the garbage) everything, later, boy, girl, yummy, wonderful	【コ】進んで、絵本などの短い話を反応しながら聞こうとする。 【備】日課を表す表現に慣れ親しむ。絵本などの短い話を聞いて、おおよその内容が分かる。 【気】絵本の読み聞かせを通して、日本語と英語の音声やリズムなどの違いに気付く。	1	・絵本の読み聞かせを聞いたり、絵本についての質問に答えたりする。 ・校内の先生の生活について聞き、どの先生かを当てる。	【新4】U 9 全ページ *指導編 (p39) 「指導者の表現例」参照。	・本単元は、この年間指導計画では取り上げていない【新4】U4の内容と関連のある単元である。本単元では、一日の生活を表す英語表現を文として扱い、特に第4学年において第5学年の学習につなげるようにする。

A～Eの記号について
A-〔平成30年度：6年〕
B-〔平成30年度：5年、平成31年度：6年〕
C-〔平成30年度：4年、平成31年度：5年〕
D-〔平成30年度：3年、平成31年度：4年〕
E-〔平成31年度：3年〕

- ・「授業で扱うページ例」をすべて扱う必要はありません。 ・教材にない言語活動を取り入れることも可能です。
- ・この年間指導計画は、単式学級の計画をもとに、平成30年度は上・学年を、平成31年度は下学年を中心とした単元配列となっています。

使用教材	単元	タイトル・題材	表現（児童の発話例）	語彙（児童が使う語彙例）	単元目標（現行の外国語活動の観点）	時数	主な活動例	授業で扱うページ例	配慮事項
新3	1	Hello! あいさつをして友達になろう	Hello, Hi. I'm (Hinata). Good bye. See you. ＊様子を尋ねたり，感情や状態を答えたりする表現（ How are you? I'm (happy). ）も含めて扱う。	挨拶 (hello, hi, goodbye, see you) friend, I, am ＊ how, a re, 状態・気持ち (fine, ha ppy, good, sleepy , hungry, tired, sad, great) も含めて扱う。	【コ】進んで，友達と挨拶をして，自分の好きなことを伝え合おうとする。 【備】挨拶の言い方に慣れ親しむ。 【気】様々な挨拶の仕方があることに気付く。	1	・映像資料を視聴し，世界には様々な言語があることを知る。 ・名前を言って挨拶をする。	【新3】U 1 全ページ ＊指導編（p 6）「指導者の表現例」を参照し，児童が日常的に外国語にふれる機会をもつ。	・第4学年は，前年度の既習内容であるので，モデルやデモンストレーション役を行う。 ・How are you? I'm ha ppy. の表現に出合わせる。ここで十分に慣れ親しむようにする。
		How many? 数えてあそぼう	How many (apples)? (Ten) (apples).	many 数 (0～30)	【コ】進んで，数を尋ねたり答えたりしようとする。 【備】0～30の数の言い方や数の尋ね方に慣れ親しむ。	1	・じゃんけんで勝った数を数えたり，身の回りの物の数を数えたりする活動等を通して，0～30の数を尋ねたり答えたりする。	【新3】U 3 p 10・11	・第4学年は，前年度の既習内容であるので，モデルやデモンストレーション役を行う。 ・本単元では，1～20までを学習することとなっているが，ここでは0～30までの数を取る。
新3	4	I like blue. 好きなものをつたえよう	I like (blue). Do you like (blue)? Yes, I do. / No, I don't. I don't like (blue).	I like, do, not, don't, too 色 (red, blue, green, yellow, pink, black, white, orange, purple, brown) スポーツ (soccer, basche all, basketball, do dgeball, swimming) 飲み物 (ice cream, pudding, milk, orange ju ice) 果物・野菜 (onion, gr een pepper, cucumber, carrot) ran bow	【コ】進んで，好みを尋ねたり答えたりして伝え合おうとする。 【備】色の言い方や，好きかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 【気】好きな物について多様な考え 方があることや，音声やリズムについて日本語（外来語）と英語の違いに気付く。	4	・映像資料を視聴し，世界の子どもの描く虹の絵を見て，色（表現）の違いに気付く。 ・友達の好き嫌いを予想してインタビュースする。 ・自分の好きなものを使って自己紹介をする。	【新3】U 4 全ページ	・第4学年は，前年度の既習内容であるので，モデルやデモンストレーション役を行う。 ・本単元で扱う表現 ではないが，この時期から，毎時間，授業の始めに天気の表現に慣れ親しませる。 How is the weather today? It's ～.
		Whats this? これなあに？	What's this? Hint, please. It's (a fr uit). It's (green). It's (a melon). That's right.	it h in, sea 動物 (elephant, horse) spider	【コ】進んで，クイズを出したり答えたりしようとする。 【備】身の回りの物の言い方や，ある物が何かを尋ねたり，それが何かを答えたりする表現に慣れ親しむ。 【気】音声やリズムについて日本語（外来語）と英語の違いに気付く。	4	・映像資料を視聴し，ある物が何かを考えて答える。 ・ある物についてのヒントを聞いて，それが何かを考えて答える。 ・ある物についてヒントを考え，クイズを出したり答えたりする。	【新3】U 8 全ページ ＊指導編（p 33, 35）「指導者の表現例」参照。	
新3 セット	6	ALPHABET アルファベットとなかよし	(The "A" card), please Here you are. Thank you. You 're welcome	大文字 (A～Z), the card, alphabet, please, here, than k, welcome, bo ok, drum, fish, gorilla, hat, ink, jet, king, monkey, noteb ook, pig, queen, rabbit, sun, tree, umbrell a, violin, wath, box, yacht	【コ】進んで，自分の姓名の頭文字を伝え合おうとする。 【備】活字体の大文字とその読み方に慣れ親しむ。 【気】身の回りには活字体の大文字で表されているものがあることに気付く。	2	・映像資料を視聴し，大文字の様々な表示を見て何を表しているかを考える。 ・児童用テキスト誌面から大文字を探す。 ・自分の姓名の頭文字を伝え合う。	【新3】U 6 p 22・23 ＊指導編（p 27）「指導者の表現例」参照。	・本単元は，第3学年が国語科でローマ字を学習してから行うようにする。 ・第4学年は，前年度の既習内容であるので，モデルやデモンストレーション役を行う。
		Alphabet アルファベットで文字遊びをしよう	Loo k. What's this? Hint, please. How many letters? I ha ve (six). Do you have (a "b")? Yes, I do. / No, I don't. That's right. Sorry. Try again.	小文字 (a～z) letter, ry, again, bookstore, juice, news, scho ol, station, taxi, teleph one	【コ】進んで，アルファベットの小文字について尋ねたり答えたりしようとする。 【備】活字体の小文字と，その読み方に慣れ親しむ。 【気】身の回りにはアルファベットの活字体の文字で表されているものがたくさんあることに気付く。	2	・映像資料を視聴し，地域の看板や身の回りにアルファベットの文字が使われていることを知る。 ・アルファベットクイズを作り，クイズを出し合う。	【新4】U 6 p 22・23 p 25【Activity 1】 ＊指導編（p 27）「指導者の表現例」参照。	・4年の教材なので，扱う語彙は，児童の実態を踏まえて選択する。
新3	9	Who are you? きみはだれ？	Are you (a dog)? Yes, I am. / No, I'm not. Who are you? I'm (a dog). Who am I? Hint, please.	who 動物 (cow, dragon, snake, horse, tiger, sheep, chicken) 状態・気持ち (b ng, shiny, scary, round, fury) 身体の部分 (head, eyes, ears, nos e, mouth, shoulders, k nees, toes)	【コ】進んで，絵本などの短い話を反応しながら聞くとともに，台詞を真似て言おうとする。 【備】誰かと尋ねたり，それに答えたりする表現に慣れ親しむ。また，絵本などの短い話を聞いて，おおよその内容が分かる。 【気】絵本の読み聞かせを通して，日本語と英語の音声やリズムなどの違いに気付く。	1	・絵本の読み聞かせを聞いたり，絵本についての質問に答えたりする。 ・台詞を真似て言う。	【新3】U 9 全ページ ＊指導編（p 39）「指導者の表現例」参照。	

A～Dの記号について
A-〔平成30年度：6年〕
B-〔平成30年度：5年、平成31年度：6年〕
C-〔平成30年度：4年、平成31年度：5年〕
D-〔平成30年度：3年、平成31年度：4年〕

(1 学期)

平成30年度 第5・6 学年【6年：A・5年：B】外国語活動 年間指導計画（参考例）

移行措置【50時間】

・「授業で扱うページ例」をすべて扱う必要はありません。 ・教材にない言語活動を取り入れることも可能です。

・この年間指導計画は、単式学級の計画をもとに、平成31年度は下学年を中心とした単元配列となっています。

島根県教育委員会

使用教材	単元	表現（児童の発話例）	語彙（児童が使う語彙例）	単元目標（現行の外国語活動の観点）	時数	主な活動例	授業で扱うページ例	配慮事項
HF1 新6	1 1	Hello! 言語 挨拶 This is me. 自己紹介	my, name 挨拶 (hello, hi, Nice to meet you.) from, nickname, favorite	【二】進んで、挨拶しようとしたり、自分の好きなことを伝えようとしたりする。 【備】挨拶の仕方や好きなことを表す表現に慣れ親しむ。	1	・ペアで転抄をする。 ・自己紹介をし合う。	【HF1】 L1 p 2・3 【新6】 U1 p 2・3 p 4 (Let's Play 1)	・第6 学年はモデルやデモンストレーション役を行う。 ・新6 Ulp2・3は実態を踏まえて取り入れる。 ・I like~, の表現は6年を中心に行う。 ・HF1L2での感情や様子を表したり尋ねたりする活動は帯活動で行う。
HF1	3	How many pencils? Five pencils.	身の回りのもの (cat, dog, pencil, apple) 数 (one, two, ..., twenty)	【二】進んで、数を数えたり尋ねたりしようとする。 【備】1～20の言い方や数の尋ね方に慣れ親しむ。	2	・身の回りの物の数を尋ねたり答えたりする。 ・数に関するクイズをつくり、出題したり答えたりする。	【HF1】 L3 p 10 (Let's Play 1) p 11・12	・第5 学年を中心に指導する。 ・この単元の表現は、慣れ親しむことができるよう 帯活動等で繰り返し扱う。
HF1	4	I like apples. I don't like~. Do you like~? Yes, I do. / No, I don't.	果物 (strawberry(ies), cherry(es), peach(es), grape(s), kiwi fruit(s), lemon(s), banana(s), pineapple(s), orange(s), melon(s)) 食べ物・飲み物 (ice cream, milk, juice) スポーツ (baseball, soccer, swimming, basketball) 動物 (bird(s), rabbit(s), dog(s), cat(s), spider(s))	【二】進んで、好きを尋ねたり答えたりして伝え合おうとする。 【備】色の言い方や、好きかどうかや何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 【気】多様な考え方があることや、外来語を通して音声やリズムについて日本語と英語の違いに気付く。	3	・自分の好きなものについて話したり質問に答えたりする。 ・自分の好きなものについて発表する。	【HF1】 L4 p 14・15・16 p 17 (Let's Chant 2, Activity)	・第5 学年を中心に指導する。 ・扱う語彙は、例えば第5 学年は少なく、第6 学年は多くするなど、児童の実態を踏まえて選択する。 ・次の単元HF1L5と関連付ける。
HF1	5	What do you like? What (animal / color / fruit / sport) do you like? I like (rabbits / red / bananas / soccer).	T-shirt 色 (red, blue, yellow, pink, green, brown, orange, purple, black, white) 形 (heart, star, circle, triangle)	【二】進んで、好きなものについて尋ねたり答えたりしようとする。 【備】色や形、好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。 【気】日本語と英語の音声の違いに気付く。	3	・どのような物が好きかを尋ねたり答えたりする。 ・食べ物やスポーツなどの好みについてインタビューし、学級のランキングを作る。	【HF1】 L5 p 18・19・21	・第5 学年を中心に指導する。 ・扱う語彙は、例えば第5 学年は少なく、第6 学年は多くするなど、児童の実態を踏まえて選択する。 ・前の単元HF1L4と関連付ける。
HF1	6	What do you want? The "A" card, please.	アルファベットの大文字 (A-Z) 数 (twenty-one, ..., thirty)	【二】進んで、欲しいものを尋ねたり答えたりしようとする。 【備】欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。また、活字体の大文字とその読み方（名称）に慣れ親しむ。 【気】身の回りにはアルファベットの文字で表されているものが多いことに気付く。	3	・誌面から大文字を探す。 ・大文字カードについて、クイズをつくり、出題したり答えたりする。	【HF1】 L6 p 22・23・24 p 25 (Let's Chant 2, Let's Play 3)	・この単元以降、活字体の大文字に適宜触れ、十分慣れ親しませるようにする。（読む・書く）
HF2	1	Do you have ~? Yes, I do. / No, I don't.	アルファベットの小文字 (a-z) 数 (thirty-one, ..., forty, fifty, sixty, ..., hundred)	【二】進んで、ある物を持っているかどうかを尋ねたり答えたりしようとする。 【備】31～100の数の言い方や、ある物を持っているかどうか尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。また、活字体の小文字を識別し、その読み方に慣れ親しむ。 【気】身の回りには活字体の小文字で表されているものがたくさんあることに気付く。	3	・身の回りから、あるいは誌面で見つけたアルファベットの文字や看板や表示をクイズ形式で紹介する。 ・身の回りからアルファベットの小文字で表されているものを探す。	【HF2】 L1 p 2 p 3 (Let's Chant) p 4・5	・この単元以降、活字体の小文字に適宜触れ、十分慣れ親しませるようにする。（読む・書く）
HF1	7	What's this? It's a piano.	身の回りの物 (triangle, fish, recorder, shoe, notebook, eraser, glove, beaker, bird, textbook, eggplant, brush, mat, bat, cap, map, ruler, globe, tomato, frying pan, cup, microscope, piano, flower)	【二】進んで、ある物についてそれが何かと尋ねたり、答えたりしようとする。 【備】ある物が何かと尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。 【気】日本語と英語の共通点や相違点から言葉の面白さに気付く。	2	・あるものについてのヒントを聞いて、それが何かを考えて答える。 ・あるものについてヒントを考え、クイズを出したり答えたりする。	【HF1】 L7 p 26・27・30	・第5 学年を中心に指導する。 ・扱う語彙は、例えば第5 学年は少なく、第6 学年は多くするなど、児童の実態を踏まえて選択する。
HF1	9	What would you like? I'd like a hamburger.	食べ物・料理 (hamburger, omlet, hamburger steak, salad, cake, spaghetti, hotdog, pizza, ice cream, yogurt, pudding, orange juice, parfait, sushi, sausages, fried chicken, green tea, ratto, miso soup, rice, bread, French fries)	【二】進んで、ほしいものについて丁寧に尋ねたり答えたりしようとする。 【備】欲しいものについての丁寧な表現の仕方や尋ね方に慣れ親しむ。 【気】世界には様々な食生活があることや、欲しいものを尋ねたり言ったりする際に英語にも丁寧な表現があることに気付く。	3	・映像資料を視聴して、世界の学校では様々な食生活があることを知る。 ・やり取りをしてランチメニューを作って紹介する。	【HF1】 L9 p 36 p 37 (Let's Chant) p 38・39・40	・第5 学年を中心に指導する。 ・扱う語彙は、例えば第5 学年は少なく、第6 学年は多くするなど、児童の実態を踏まえて選択する。 ・HF1L6と関連付ける。

A～Dの記号について
A-〔平成30年度：6年〕
B-〔平成30年度：5年、平成31年度：6年〕
C-〔平成30年度：4年、平成31年度：5年〕
D-〔平成30年度：3年、平成31年度：4年〕

(2学期)

- ・「授業で扱うページ例」をすべて扱う必要はありません。 ・教材にない言語活動を取り入れることも可能です。
- ・この年間指導計画は、単式学級の計画をもとに、平成30年度は上学年を、平成31年度は下学年を中心とした単元配列となっています。

島根県教育委員会

平成30年度 第5・6学年【6年：A・5年：B】外国語活動 年間指導計画（参考例） 移行措置【50時間】

使用教材	単元	タイトル・題材	表現（児童の発話例）	語彙（児童が使う語彙例）	単元目標（現行の外国語活動の観点）	時数	主な活動例	授業で扱うページ例	配感事項
新6	5	My Summer Vacation 夏休みの思い出	I went to (my grandparents' house). I enjoyed (fishing). I saw (the blue sea). I ate (ice cream). It was (fun / exciting / beautiful / delicious).	Grandparent, vacation, zoo 動詞の過去形 (went, ate, saw, enjoyed, was) 自然 (beach, mountain, sea, lake, river) 動作 (hiking, camping, fishing)	【慣】 夏休みに行った場所や食べ物、楽しんだこと、感想などを表す表現に慣れ親しむ。	2	・夏休みの思い出を表す言葉を探いたり言ったりする。	【新6】115 p.34・35・36・37	・扱う語彙は、例えば第5学年は少なく、第6学年は多くするなど、児童の実態を踏まえて選択する。
HF 2	2	When is your birthday? My birthday is March eighteenth.	When is your birthday? My birthday is March eighteenth.	月 (January, February, March, April, May, June, July, August, September, October, November, December) 序数 (first, second, ..., thirty-first)	【コ】 進んで、誕生日を尋ねたり答えたりしようとする。 【慣】 月の言い方や誕生日を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 【気】 世界には様々な祭りや行事があることに気付く。	2	・友達 の誕生日を調べる。 ・簡単な語句を書き写して、パースデーカードを作成する。 ・やり取りをしてパースデーカードを届ける。	【HF 2】112 p.6・7 p.8 (Let' s Chant) p.9	・書き写す活動は実態を踏まえ慣れ親しむ程度とする。 ・パースデーカードを作成し、やり取りする際には、新512p.16を参考にし、児童の誕生日当日に贈るなど年間を通して行う。 ・HFで扱っていない「書く」活動も取り入れ、慣れ親しませるようにする。
HF 2	3	I can swim. スポーツ動作	I can / can't ~. Can you ~? Yes, I can. / No, I can't.	動作 (play, swim, cook, ride) スポーツ (basketball, soccer, baseball, badminton, table tennis, unicycle) 楽器 (piano, recorder)	【コ】 進んで、できることを尋ねたり、自分のできることやできないことやできないことを答えたりしようとする。 【慣】 自分についてできる、できないことを表したり、できるかどうかを尋ねたりする表現に慣れ親しむ。 【気】 言語や人、それぞれに違いがあることを知る。	1	・できるかどうかを尋ねたり答えたりする。	【HF 2】113 p.10 p.12 (Let' s Chant)	・扱う語彙は、例えば第5学年は少なく第6学年は多くするなど、児童の実態を踏まえて選択する。 ・次の単元第515に関連付ける。 ・目標が3つ設定されているが、1つの活動の中に網羅し、一体的に達成できるようにする。
新5	5	She can run fast. He can jump high. できること	Can you (sing well)? Yes, I can / No, I can't. [I / You / He / She] I can / can't] (sing well) .	動作 (play soccer / badminton / table tennis / volleyball / shogi / kendama / the recorder / the piano) do [kendo/ judo], ride a bicycle / unicycle] swim, skate, ski, cook, run fast, jump high, sing well	【コ】 自分や第三者についてできることやできないことなどを紹介し合おうとする。 【慣】 自分や第三者についてできることやできないことを尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。 【気】 アルファベットの文字には、音があることに気付く。	2	・第三者についてできることやできないことをクイズ形式で紹介する。 ・巻末のジングルを聴いて、アルファベットの文字には音があることを知る。	【新5】115 p.34・35・38・39 p.77	・前の単元HF21.3に関連付ける。 ・この単元以降、巻末のジングルを用いて、文字の音について適宜触れるようにする。
新6	3	He is famous. She is great. 人物紹介	I am (Ken). I like / play] the violin/ baseball]. I have / want] a new [recorder/ ball]. I eat (spaghetti). I study (math).	famous, nut, fresh, old 身の回りの物(racket, computer, violin, drum)	【慣】 語順に意識して、自分のことや第三者のことにについて伝え合う表現に慣れ親しむ。 【気】 〈主語＋動詞＋目的語〉の文の語順に気付く。	2	・絵カードを並べて文を作る。	【新6】113 p.18・19・22・23	・文構造に気付かせる意図でこの単元までに慣れ親しんできた表現を含める。
新6	4	I like my town. 自分たちの町・地域	We have / don't have (a park). We can (see many flowers). We can enjoy [fishing / shopping / swimming]. I want a [library / park]. (Sakura) is nice.	we, town, but, so, nature 施設と建物 (amusement park, aquarium, swimming pool, stadium, roller coaster, Ferris wheel) 動作 (dancing, jogging, playing, reading, shopping, singing, swimming, walking)	【コ】 地域のようななどについて伝え合おうとする。 【慣】 地域にどのような施設があるのか、また欲しいのか、さらに地域のよさを表す表現に慣れ親しむ。	2	・地域にある、あるいは、ない施設等を紹介し、自分たちの町について考えや気持ちを伝え合う。	【新6】114 p.26 p.27 (Let' s Listen) p.28 p.29 (Let' s Chant) p.31 (Activity 1)	・扱う語彙は、例えば第5学年は少なく、第6学年は多くするなど、児童の実態を踏まえて選択する。
HF 2	4	Turn right. 建物道案内	Where is the school? Go straight. Turn right / left. Stop. Excuse me.	建物など (park, flower shop, hospital, bookstore, restaurant, supermarket, fire station, police station, convenience store, department store, post office, station)	【慣】 道案内や、物の位置を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 【気】 英語と日本語での建物の表し方に違いがあることに気付く。	1	・行きたい場所を尋ねたり、道案内をしたりする。	【HF 2】114 p.14・15・16 (Let' s Chant)	・時数が1時間であるので、扱う語彙は、新614と関連付け、児童の負担にならないよう選択する。
HF 2	5	Let's go to Italy. 世界の国々世界の生活	I want to go to Italy. Where do you want to go? Let's go.	国名 (America, Australia, Brazil, China, Egypt, France, Greece, India, Japan, Spain) 動作 (eat, see)	【コ】 進んで、おすすめ の国について発表したり、友達 の発表を聞いたりしようとする。 【慣】 行きたい国について尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。 【気】 世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付く。	3	・おすすめ の国 のポスターをもとに、おすすめ の国を紹介する。 ・行きたい国の国名を書き写して、おすすめ の国ポスターを作成する。	【HF 2】115 p.18 (Let' s Play 1) p.19 (Let' s Listen 1)	・書き写す活動は児童の実態を踏まえ慣れ親しむ程度とする。 ・HFで扱っていない「書く」活動も取り入れ、慣れ親しませるようにする。
HF 2	6	What time do you get up? 世界の国々世界の生活	I get up at seven. What time do you get up?	動作 (get up, go to school / bed)	【コ】 進んで、自分の一日を紹介したり、友達 の発表を聞いたりしようとする。 【慣】 一日の生活について尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。	2	・自分の一日を紹介し合う。 ・起床、就寝時刻等を尋ね合う。 ・一日の生活に関する簡単な語句を書き写す。	【HF 2】116 p.22・23 p.24 (Let' s Chant) p.25 (Activity 2)	・書き写す活動は児童の実態を踏まえ慣れ親しむ程度とする。 ・HFで扱っていない「書く」活動も取り入れ、慣れ親しませるようにする。
新5	3	What do you have on Monday? 学校生活・教科・職業	Do you have (P.E.) on (Monday)? Yes, I do / No, I don't. What do you have on (Monday)? I study (math). I want to be (a teacher). I want to study (math).	cleaning time, recess, study 教科 (Japanese, English, math, social studies, home economics, calligraphy, moral education, P.E.) 職業 (police officer, soccer player, doctor, baseball player, florist) 曜日 (Sunday, Monday, Tuesday, Wednesday, Thursday, Friday, Saturday)	【コ】 進んで、教科について尋ねたり答えたりしようとする。 【慣】 教科について尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 【気】 世界には様々な学校があり、日本と世界の学校生活の共通点と相違点に気付く。	3	・映像資料を視聴し、世界には様々な学校生活があることを知る。 ・活字体の文字を読んだり書いたりする。 ・ある職業に就くためのオリジナル時間割を作成する。 ・オリジナル時間割をクイズ形式で紹介する。	【新5】113 p.18・19・20・24	・活字体の文字や表現に慣れ親しませるようにする。 ・職業の英語表現は、例えば発表する際に使用する語彙のみにするなど、児童の実態を踏まえて選択する。

A～Dの記号について
A-〔平成30年度：6年〕
B-〔平成30年度：5年、平成31年度：6年〕
C-〔平成30年度：4年、平成31年度：5年〕
D-〔平成30年度：3年、平成31年度：4年〕

(3 学期)

- ・「授業で扱うページ例」をすべて扱う必要はありません。 ・教材にない言語活動を取り入れることも可能です。
- ・この年間指導計画は、単式学級の計画をもとに、平成30年度は上学年を、平成31年度は下学年を中心とした単元配列となっています。

平成30年度 第5・6学年【6年：A・5年：B】外国語活動 年間指導計画（参考例） 移行措置【50時間】 島根県教育委員会

使用教材	単元	タイトル・題材	表現（児童の発話例）	語彙（児童が使う語彙例）	単元目標（現行の外国語活動の観点）	時数	主な活動例	授業で扱うページ例	配慮事項
新6	7	My Best Memory 小学校生活・思い出行事	My best memory is (sports festival). We enjoyed (running). We [went to (kyoto) / ate (Japanese food) / saw (old temples) / enjoyed (the trip)].	best, memory 行事 (sports day, school trip, music festival, volunteer day, drama festival, swimming meet, entrance ceremony, graduation day)	【コ】 思い出の学校行事について伝え合おうとする。 【慣】 学校行事について表す表現に慣れ親しむ。 【気】 英語の書き方の規則に気付く。	3	・映像資料を視聴し、世界には様々な学校行事があることを知る。 ・思い出の学校行事について尋ねたり答えたりする。 ・思い出のアルバムを作ってそれをもとに小学校の思い出を紹介する。	【新6】U7 p 50・51・53・56	・第6学年を中心に指導する。 ・扱う語彙は、例えば第5学年は少なく、第6学年は多くするなど、児童の実態を踏まえて選択する。 ・語と語の間にはスペースがあることに気付かせたり、これまでの学習を生かして語順にも改めて意識を向けさせたりする。
HF2	8	What do you want to be? I like (animals). I want to be (a vet). I can (play the piano well). I want to be (a pianist). That's (good). Good luck.	What do you want to be? I like (animals). I want to be (a vet). I can (play the piano well). I want to be (a pianist). That's (good). Good luck.	be, luck, future 職業 (cook, pilot, singer, cabin attendant, vet, zoo keeper, comedian, baker, dentist, a rist, farmer, bus driver)	【コ】 進んで、自分の夢について交流しようとする。 【慣】 どのような職業に就きたいか尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 【気】 世界には様々な夢をもつ同年代の子供たちがいることを知り、英語と日本語の職業を表す語の成り立ちを通して言葉の面白さに気付く。	3	・将来の夢について、クイズ方式で伝え合う。 ・どのような職業に就きたいかインタビューする。	【HF2】L8 全ページ	・児童の実態に合わせて語彙を選択する。
新5	9	Who is your hero? あこがれの人	Who is your hero? This is my hero. [He/ She] is good at (playing tennis). [He/ She] is a good (tennis player). [He/ She] can (cook well) . 〔 He / She 〕 is 〔 kind/ cool/ great/ strong/ gentle/ active/ brave/ funny 〕 .	hero, so, because 状態・気持ち (a dive, cool, fantastic, friendly, gentle, kind, brave, strong, tough)	【コ】 自分があこがれたり尊敬したりする人について自分の意見を含めて紹介し合おうとする。 【慣】 第三者が得意なことを表す表現に慣れ親しむ。	2	・あこがれたり尊敬したりする人について、自分の意見を含めて伝え合う。	【新5】U9 p 66・67・70・71	・児童の実態に合わせて語彙を選択する。
新6	9	Junior High School Life 中学校生活・部活動	I like (basketball). I want to join (the basketball team). What club do you want to join? I want to enjoy (sports day). What event do you want to enjoy? I want to (study hard/ read many books/ make many friends).	member, team, practice, meet, join, junior, high, us, event, uniform, test	【コ】 進んで、中学校生活について伝え合おうとする。 【慣】 中学校の部活動や学校行事について自分の考えを表す表現に慣れ親しむ。	2	・中学校で入りたい部活動や楽しみたい行事について尋ねたり答えたりする。 ・映像資料を視聴し、身の回りに英語が使われている場面があることに気付くとともに、英語を学習することで世界が広がることを知る。	【新6】U9 p 66・67 p 70 (Let's Play) 【新5】U1 p 2 p 3 (Let's Watch and Think)	・第6学年を中心に指導する。 ・新5U1に触れ、第6学年が自分の成長を感じられるようにする。

A～Dの記号について
A- (平成30年度：6年) 平成31年度：6年]
B- (平成30年度：5年、平成31年度：5年]
C- (平成30年度：4年、平成31年度：4年]
D- (平成30年度：3年、平成31年度：4年]

(1 学期)

平成31年度 第 5 ・ 6 学年 【6年：B・5年：C】外国語活動 年間指導計画（参考例）

移行措置【50時間】

島根県教育委員会

- ・「授業で扱うページ例」をすべて扱う必要はありません。 ・教材にない言語活動を取り入れることも可能です。

- ・この年間指導計画は、単式学級の計画をもとに、平成30年度は上学年を、平成31年度は下学年を中心とした単元配列となっています。

使用教材	単元	タイトル・題材	表現（児童の発話例）	語彙（児童が使う語彙例）	単元目標（現行の外国語活動の観点）	時数	主な活動例	授業で扱うページ例	配慮事項
新 5	1	Hello, everyone. アルファベット ト・自己紹介	Hello, I'm (Saki). Nice to meet you. My name is (Kosei). How do you spell your name? K-O-S-E-I. I [like / don't like] (blue). What (sport) do you like? I like (soccer) very much. What do you want? I want (a new ball). I like / play (soccer). My nickname is (Ken). I'm from (Shizuoka).	nice, to, meet, spell, new, very, much, class, badminton, chocolate, lettuce, name, animal watch, think, from, nickname, favorite	【コ】進んで、簡単な自己紹介をしようとする。 【備】好きなものや欲しいものなどを表したり尋ねたりする表現に慣れ親しむ。また、活字体の大文字を読むことに慣れ親しむ。 （ 6 年 ） 【コ】好きなことなどを含めて自分のことを伝え合おうとする。 【備】自己紹介に関する表現や好きなこと、できることなどを表す表現に慣れ親しむ。	2	・好きなもの、欲しいものなどを含めて自己紹介をする。 ・活字体の大文字で自分の名前を書いたり、そのつづりを言ったりする。	【新 5】U1 p 2・3 p 4 (Let's Play 1) p 6 (Let's Listen 3) p 8 【新 6】U1 p 2・3 p 8	・自己紹介の仕方は、第 5 学年は新 5 U 1 p 8 を、第 6 学年は新 6 U 1 p 8 を使って行い、異程度で目標等を設定する。 ・新 5 U 1 p 6 の「Let's Listen 3」では、What do you want? の表現を取り上げ、2 学期新 5 U 8 What would you like? に関連付ける。 ・新 6 U 1 の「Let's Watch and Think」でhaveが新出するが児童が発話することはない。
HF 1	3	How many? 数 身の回りの物	How many pencils? Five pencils	身の回りの物 (cat, dog, pencil, apple) 数 (one, two, ..., twenty)	【コ】進んで、数を数えたり尋ねたりしようとする。 【備】1 ～ 20 の言い方や数の尋ね方に慣れ親しむ。 【気】言語には、それぞれの特色があることに気付く。	2	・身の回りの物の数を尋ねたり答えたりする。 ・数に関するクイズをつくり、出題したり答えたりする。	【HF1】L 3 p 10・11・12	・第 6 学年は前年度の 1 学期の既習内容であるので、モデルやデモンストレーション役も行う。 ・この単元の表現は、慣れ親しむことができるよう帯活動等で繰り返し扱う。
HF 1	5	What do you like? 色 形	What do you like? What (animal/ color/ fruit/ sport) do you like? I like (rabbits/ red/ bananas/ soccer).	T-shirt 色 (red, blue, yellow, pink, green, brown, orange, purple, black, white) 形 (heart, star, circle, triangle)	【コ】進んで、好きなものについて尋ねたり答えたりしようとする。 【備】色や形、好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。 【気】日本語と英語の音声の違いに気付く。	3	・どのような物が好きかを尋ねたり答えたりする。 ・食べ物やスポーツなどの好みについてインタビューし、学級のランキングを作る。	【HF1】L 5 全ページ	・第 6 学年は前年度の 1 学期の既習内容であるので、モデルやデモンストレーション役も行う。 ・扱う語彙は、例えば第 5 学年は示されているもののみで、第 6 学年はそれ以外のものを扱うなど、児童の実態を踏まえて選択する。
新 4	6	Alphabet アルファベット トで文字遊び しよう	Look. What's this? Hint, please. How many letters? I have (six). Do you have (a "b")? Yes, I do. / No, I don't. That's right. Sorry. Try again.	小文字 (a-z) letter, try, again, coffee, closed, donut, exit, juice, news, off, open, police, restaurant, taxi, telephone, bus stop, flower	【コ】進んで、活字体の小文字について尋ねたり答えたりしようとする。 【備】活字体の小文字とその読み方に慣れ親しむ。 【気】身の回りには活字体の小文字で表されているものがあることに気付く。	3	・映像資料を視聴し、地域の看板や身の回りにあるものから小文字を知る。 ・アルファベットクイズをつくり、クイズを出したり答えたりする。	【新 4】U 6 全ページ	・この単元以降、活字体の大文字・小文字に慣れ親しませるようにする。（読む・書く） ・第 6 学年は、活字体の文字や表現は既習内容であるのでモデル役も行う。 ・この単元以降、活字体の文字や表現に慣れ親しませるようにする。（読む・書く）
HF 1	7	What's this? 身の回りの物	What's this? It's a piano.	身の回りの物(triangle, fish, recorder, shoe, notebook, eraser, glove, booker, bird, textbook, eggplant, brush, mat, bat, cap, map, ruler, globe, tomat, frying pan, cup, microscope, piano, flower)	【コ】進んである物についてそれが何かと尋ねたり、答えたりしようとする。 【備】ある物が何かと尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。 【気】日本語と英語の共通点や相違点から言葉の面白さに気付く。	3	・あるものについてのヒントを聞いて、それが何かを考えて答える。 ・あるものについてヒントを考え、クイズを出したり答えたりする。	【HF1】L 7 p 26・27・30・31	・第 6 学年は前年度の 1 学期の既習内容であるので、モデルやデモンストレーション役も行う。 ・扱う語彙は、例えば第 5 学年は示されているもののみで、第 6 学年はそれ以外のものを扱うなど、児童の実態を踏まえて選択する。
新 5	2	When is your birthday? 行事・誕生日	When is your birthday? My birthday is (August 19th). This is for you Thank you	月 (January, February, March, April, May, June, July, August, September, October, November, December) 季節 (spring, summer, autumn / fall, winter) 序数 (1st, ..., 31st) your	【コ】進んで、誕生日を尋ねたり答えたりしようとする。 【備】月の言い方や、誕生日を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 【気】世界には様々な祭りや行事があることに気付く。	4	・映像資料を視聴し、世界の行事やそれがどのような行事かを知る。 ・誕生日や欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 ・カードを作成し、贈り合う。	【新 5】U 2 p 10・11・12・13・16	・第 6 学年は前年度の 2 学期の HF 21, 2 の既習内容であるので、モデルやデモンストレーション役も行う。 ・パースデ・カードを作成し、やり取りする際には、新 5 U 2 p 16 を参考にし、児童の誕生日当日に贈るなど年間を通して行う。
新 5	3	What do you have on Monday? 学校生活・教科・職業	Do you have (P.E.) on (Monday)? Yes, I do. / No, I don't. What do you have on (Monday)? I study (math). I want to be (a teacher). I want to study (math).	cleaning time, recess, study 教科 (Japanese, English, math, social studies, home economics, calligraphy, moral education P.E.) 職業 (police officer, soccer player, doctor, baseball player, florist) 曜日 (Sunday, Monday, Tuesday, Wednesday, Thursday, Friday, Saturday)	【コ】進んで、教科について尋ねたり答えたりしようとする。 【備】教科について尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 【気】世界には様々な学校があり、日本と世界の学校生活の共通点と相違点に気付く。	3	・映像資料を視聴し、世界には様々な学校生活があることを知る。 ・活字体の文字を読んだり書いたりする。 ・ある職業に就くためのオリジナル時間割を作成する。 ・オリジナル時間割をクイズ形式で紹介する。	【新 5】U 3 p 18・19・20・24	・第 6 学年は、前年度の 3 学期の既習内容であるので、モデルやデモンストレーション役も行う。 ・活字体の文字や表現に慣れ親しませるようにする。

A～Dの記号について	
A-	〔平成30年度：6年〕
B-	〔平成30年度：5年、平成31年度：6年〕
C-	〔平成30年度：4年、平成31年度：5年〕
D-	〔平成30年度：3年、平成31年度：4年〕

(2学期)

平成31年度 第5・6学年【6年：B・5年：C】外国語活動 年間指導計画（参考例） 移行措置【50時間】 島根県教育委員会

- ・「授業で扱うページ例」をすべて扱う必要はありません。 ・教材にない言語活動を取り入れることも可能です。
- ・この年間指導計画は、単式学級の計画をもとに、平成30年度は上学年を、平成31年度は下学年を中心とした単元配列となつています。

使用教材	単元	タイトル・題材	表現（児童の発話例）	語彙（児童が使う語彙例）	単元目標（現行の外国語活動の観点）	時数	主な活動例	授業で扱うページ例	配慮事項
新6	5	My Summer Vacation 夏休みの思い出	I went to (my grandparents' house). I enjoyed (fishing). I saw (the blue sea). I ate (ice cream). It was (fun/ exciting/ beautiful/ delicious).	grandparent, vacation, zoo 動詞の過去形（went, ate, saw, enjoyed, was） 自然（beach, mountain, sea, lake, river） 動作（hiking, camping, fishing）	【コ】進んで、夏休みの思い出について伝え合おうとする。 【備】夏休みに行った場所や食べ物、楽しんだこと、感想などを表す表現に慣れ親しむ。 【気】英語の書き方の規則に気付く。	3	・夏休みの思い出を伝え合い、来年度の夏休みを一緒に過ごしたいと思う友達とたくさん見つける。	【新6】U5 p 34・35・36・37・39・40	・扱う語彙は、例えば第5学年は示されているものより少なく、第6学年は示されているものと同様にするなど、児童の実態を踏まえて選択する。 ・第6学年は、前年度の2学期の既習内容であるので、モデルやデモンストレーション役も行う。 ・語と語の間にはスペースがあることに気付かせたり、これまでの学習を生かして語順にも改めて意識を向けさせたりする。
			What time do you get up? I (usually) (get up) at (7:00).	always, usually, sometimes, never, at 手伝い（wash the dishes, set the table, walk my dog, clean my room, get the newspaper）	【コ】進んで、自分の一日の生活について伝え合おうとする。 【備】一日の生活について尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。	3	・映像資料を視聴し、世界の子供たちの一日について知る。 ・日常生活について尋ねたり答えたりする。 ・自分の日常生活を頻度も含めて紹介する。	【新5】U4 p 26・27・28・29・30	・第6学年は、前年度2学期のHF2L6の既習内容であるので、モデルやデモンストレーション役も行う。
新5	5	She can run fast. He can jump high. できること	Can you (sing well)? Yes, I can./ No, I can't. [I / You / He / She] [can / can't] (sing well).	can, can't, he, she 動作（play [soccer / badminton / table tennis / volleyball / shogi / kendama / the recorder / the piano], do [kendo / judo], ride a [bicycle / unicycle], swim, skate, ski, cook, run fast, jump high, sing well）	【コ】自分や第三者についてできることやできないことなどを紹介し合おうとする。 【備】自分や第三者についてできることやできないことを尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。 【気】アルファベットの文字の音の気付く。	3	・他者ができること、できないことを尋ねたり答えたりする。 ・校内の先生についてでできること、できないことを含めて紹介する。 ・巻末のシングルを使って、アルファベットの文字には音があることを知る。	【新5】U5 p 34・35・38・39・40 p 77	・第6学年は、前年度2学期の既習内容であるので、モデルやデモンストレーション役も行う。 ・この単元以降、巻末のシングルを用いて、文字の音について適宜触れるようにする。
			I am (Ken). I [like / play] [(the violin / baseball)]. I [have / want] a new [recorder / ball]. I eat (spaghetti). I study (math). I can [swim / cook / skate / ski / sing / dance].	la mois, nut, fresh, old 身の回りの物(racket, computer, violin, drum)	【備】自分のことについて言ったり、相手の言ったことを聞いたりする表現に慣れ親しむ。 【気】〈主語＋動詞＋目的語〉の文の語順に気付く。	2	・絵カードを並べて文を作る。	【新6】U3 p 18・19・22・23	・第6学年は、前年度2学期の既習内容であるので、モデルやデモンストレーション役も行う。 ・文構造に気付かせる意図でこの単元までに慣れ親しんできた表現も含めて指導する。 ・前の単元の新5U5に関連付ける。
新5 セ	7	Where is the treasure? 位置と場所	Where is the treasure? Go straight (for three blocks). Turn [right / left] (at the third corner). You can see it on your [right / left]. It's [on / in / under / by] (the desk).	treasure, block, in, under, by, corner 身の回りの物（cap, cup, basket, scissors, box） 施設・建物（station, fire station, gas station, police station, post office, hospital, supermarket, convenience store, bookstore, park）	【コ】進んで、場所を尋ねたり道案内をしたりしようとする。 【備】道案内や物の位置を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 【気】日本語と英語では建物の表し方に違いがあることに気付く。	3	・ある物の場所や物の位置関係について説明を聞き、道案内をする。	【新5】U7 p 50・51・52・54	・文字の章に慣れ親しみ、活字体の文字を読んだり書いたりする。 ・本単元を3時間で構成しているため、物の位置を表す表現に十分に慣れ親しむことが難しいと思われる。そこで、この単元以降も意識して物の位置を表す表現を指導者が使うようにし、十分に親しめるようにする。
			We have / don't have (a park). We can (see many flowers). We can enjoy [fishing / shopping / swimming]. I want a [library / park]. (Sakura) is nice.	we, town, but, so, nature, 施設と建物（amusement park, aquarium, swimming pool, stadium, roller coaster, Ferris wheel） 動作（dancing, jogging, playing, reading, shopping, singing, swimming, walking）	【コ】地域のようななどについて伝え合おうとする。 【備】地域にどのような施設があるのか、また欲しいのか、さらに地域のよさを表す表現に慣れ親しむ。	3	・地域にある、あるいは、ない施設等を紹介し、自分たちの町について考えや気持ちを伝え合う。 ・ミニボスターを作成し、それをもとに自分たちの町について発表し合う。	【新6】U4 p 26・27・28・29 p 31（Activity 1） p32	・第6学年は第5学年の2学期の既習内容であるので、モデルやデモンストレーション役も行う。 ・扱う語彙は、例えば第5学年は示されているものより少なく、第6学年は示されているものと同様にするなど、児童の実態を踏まえて選択する。
新5	8	What would you like? 料理・値段	What would you like? I'd like a hamburger.	料理（hamburger, oniglet, hamburger steak, salad, cake, spaghetti, hotdog, pizza, ice cream, yogurt, pudding, orange juice, parfait, sushi, sausages, fried chicken, green tea, natto, miso soup, rice, bread, French fries）	【備】丁寧に欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 【気】英語にも欲しいものを尋ねたり言ったりする表現があることに気付く。	3	・丁寧な言い方で料理の注文を尋ねたり、答えたりする表現を知る。	【新5】U8 p 58・59・60・62	・第5学年は、1学期新5U1でWhat do you want?の表現を学習しているので、関連付ける。 ・第6学年は、前年度の1学期のHF1L9の既習内容であるので、モデルやデモンストレーション役も行う。 ・扱う語彙は、例えば第5学年は示されているもののみで、第6学年はそれ以外のものを扱うなど児童の実態を踏まえて選択する。

A～Dの記号について
A- 〔平成30年度：6年〕
B- 〔平成30年度：5年、平成31年度：6年〕
C- 〔平成30年度：4年、平成31年度：5年〕
D- 〔平成30年度：3年、平成31年度：4年〕

- （3学期）
- ・「授業で扱うページ例」をすべて扱う必要はありません。 ・教材にない言語活動を取り入れることも可能です。
 - ・この年間指導計画は、単式学級の計画をもとに、平成30年度は上学年を、平成31年度は下学年を中心とした単元配列となっています。

使用教材	単元	タイトル・題材	表現（児童の発話例）	語彙（児童が使う語彙例）	単元目標（現行の外国語活動の観点）	時数	主な活動例	授業で扱うページ例	配慮事項
新6	7	My Best Memory 小学校生活・思い出の行事	What's your best memory? My best memory is (sports festival). We enjoyed (running). We [went to (kyoto)] / ate (japanese food) / saw (old temples) / enjoyed (the trip)].	best, memory 行事 (sports day, school trip, music festival, volunteer day, drama festival, swimming meet, entrance ceremony, graduation day)	【コ】 思い出の学校行事について伝え合おうとする。 【慣】 学校行事について表す表現に慣れ親しむ。 【気】 世界には様々な学校生活があることに気付く。	3	・映像資料を視聴し、世界には様々な学校行事があることを知る。 ・思い出の学校行事について尋ねたり答えたりする。 ・思い出のアルバムを作ってそれをもとに小学校の思い出を紹介する。	【新6】 U7 p 50・51・53・55・56	・第6学年は前年度の3学期の既習内容であるが、第6学年を中心に指導する。 ・扱う語彙は、例えば第5学年は示されているものより少なく、第6学年は示されているものと同様にするなど、児童の実態を踏まえて選択する。
HF2	8	What do you want to be? I like (animals). I want to be (a vet). I can (play the piano). That's ~. Good luck.	What do you want to be? I like (animals). I want to be (a vet). I can (play the piano). That's ~. Good luck.	be, luck, future 職業 (cook, pilot, singer, cabin attendant, vet, zoo keeper, comedian, baker, dentist, artist, farmer, bus driver)	【コ】 進んで、自分の夢について交流しようとする。 【慣】 どのような職業に就きたいか尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 【気】 世界には様々な夢をもつ同年代の子供たちがいることを知り、英語と日本語の職業を表す語の成り立ちを通して言葉の面白さに気付く。	3	・将来の夢について、クイズ方式で伝え合う。 ・どのような職業に就きたいかインタビューする。	【HF2】 L8全ページ	・第6学年は、前年度の3学期の既習内容であるが、第6学年を中心に指導する。 ・児童の実態に合わせて語彙を選択する。
新5	9	Who is your hero? あこがれの人物	Who is your hero? This is my hero. [He / She] is good at (playing tennis). [He / She] is a good (tennis player). [He / She] can (cook well). [He / She] is [kind / cool / great / strong / gentle / a dive / brave / funny].	hero 状態・気持ち (active, cool, fantastic, friendly, gentle, kind, brave, strong, tough)	【コ】 自分があこがれたり尊敬したりする人について自分の意見を含めて紹介し合おうとする。 【慣】 第三者が得意なことを表す表現に慣れ親しむ。	2	・あこがれたり尊敬したりする人について、自分の意見を含めて伝え合う。	【新5】 U9 p 66・67・70・71	・第6学年は、前年度の3学期の既習内容であるので、モデルやデモンストレーション夜も行う。 ・児童の実態に合わせて語彙を選択する。
新6	9	Junior High School Life 中学校生活・部活動	I like (basketball). I want to join (the basketball team). What club do you want to join? I want to enjoy (sports day). What event do you want to enjoy? I want to (study hard/ read many books/ make many friends) .	member, team, practice, meet, join, junior high, us, event, uniform, test	【コ】 進んで、中学校生活について伝え合おうとする。 【慣】 中学校の部活動や学校行事について自分の考えを表す表現に慣れ親しむ。	2	・中学校で入りたい部活動や楽しみたい行事について尋ねたり答えたりする。 ・映像資料を視聴し、身の回りに英語が使われている場面があることに気付くとともに、英語を学習することで世界が広がることを知る。	【新6】 U9 p 66・67・68 p 70 (Let' s play) 【新5】 U1 p 2・3 (Let' s Watch and Think)	・第6学年は、前年度の3学期の既習内容であるが、第6学年を中心に指導する。 ・新5Uに触れ、第6学年が自分の成長を感じられるようにする。

16 総合的な学習の時間

(折衷案：同単元異内容同程度・同単元同内容同程度)

1 全体計画作成の際の留意点

総合的な学習の時間の目標は第3学年から第6学年まで共通で示され、その目標を踏まえて、各学校において目標と内容を定めます。つまり、複式学級であるなしに関わらず第3学年と第4学年、第5学年と第6学年が同じ目標、同じ内容で学習することもできますし、複式学級の2つの学年が、それぞれ異内容で学習することもできます。どのような内容をどの学年のまとまりで学習するのが、全て学校に任されています。

全体計画は「各学校における教育目標」、「各学校において定める目標」、「各学校において定める内容（「目標を実現するにふさわしい探究課題」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」）を明確にすることが重要です。さらに、基本的な内容や方針等を概括的・構造的に示すものとして「学習活動」「指導方法」「指導体制」「学習の評価」を考えて作成します。

全体計画を作成する際、以下の点について配慮が必要です。

○目標は、小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編第2章第2節に示されている「第1の目標」の趣旨を適切に盛り込むよう配慮し、地域や学校、児童の実態や特性を踏まえ、各教科等との関連を視野に入れて作成することが求められます。具体的には、以下の二つを反映させることが要件となります。

- (1)「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して」、「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す」という、目標に示された二つの基本的な考え方を踏まえること。
- (2)育成を目指す資質・能力については、「育成すべき資質・能力の三つの柱」である「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つのそれぞれについて、第1の目標の趣旨を踏まえること。

○育成を目指す資質・能力には、各学校の目標が実現された際に現れる望ましい児童の成長の姿が示されます。望ましい姿には学年段階によって違いが出てきますから、育成を目指す資質・能力の設定に際しては、学年段階ごとに考えることが必要となってきます。この学年段階は、第3・4学年、第5・6学年をそれぞれ1つの段階とした2つの学年段階による設定が実践事例としても多く、また現実的な示し方です。

複式学級においては、第3・4学年、第5・6学年と2学年をひとまとまりとした学習の実践事例が多く見られます。その場合も、目標や内容は各学校が、同単元異内容指導、同単元同内容同程度指導、同単元同内容異程度指導など、児童・地域・学校の実態に合わせて独自に決めていくことができます。ただし、その際にも、上記の2点を踏まえていることが大切です。

2 年間指導計画作成の際の留意点

複式学級であるなしに関わらず、年間指導計画において単元を配列する際には、次に示すようなパターンが考えられます。それぞれの特徴を生かしながら作成することが望まれます。

- (1)分散型…総合的な学習の時間の単元を学期ごとなどいくつかの期間に分けて取り組むもの
- (2)年間継続型…1年間を通じて同じテーマで継続的に取り組むもの
- (3)集中型…季節や地域の行事などを中核にしてある期間に集中的に取り組むもの
- (4)並列型…同じ時期に複数の単元に平行して取り組むもの
- (5)複合型…学年単位の活動と学級単位の活動など、異なる学習形態や学習集団などを組み合わせて取り組むもの

また、「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」に示されている次のような年間指導計画作成上の留意点(1)～(4)に配慮する必要があります。

(1) 児童の学習経験に配慮すること

- ・ 児童のこれまでの学習経験やその経験から得られた成果について事前に把握し、それらを生かしながら計画を立てます。特に導入学年となる第3学年には、生活科等における学習活動とその成果を把握しておくことが大切です。その上で題材等を検討し、場合によっては学年による発達段階等を考慮して異内容にすることが考えられます。

(2) 季節や行事など適切な活動時期を生かすこと

- ・ 1年間の季節や行事の流れを生かすことが大切です。地域や校内の行事等について、時期と内容の両面から、その関連付けを検討しましょう。地域の伝統行事、季節の変化、栽培・飼育活動等、学習活動を特定の時期に集中させることでその効果が一層高まるものもあります。

(3) 各教科等との関連を明らかにすること

- ・ 総合的な学習の時間では、各教科等で別々に身に付けた資質・能力を十分に把握し、組織し直し、改めて現実の生活に関わる学習において活用することが求められています。このことから、総合的な学習の時間と各教科等との関連を意識した計画を作成することが重要となります。

(4) 外部の教育資源の活用及び異校種との連携や交流を意識すること

- ・ 保護者や地域の人、専門家などの多様な人々の協力、公民館や図書館といった施設・設備など、様々な教育資源を活用することが大切です。異校種との連携や交流活動を行う際には、児童にとって交流を行う必要感や必然性があるかどうか等を考慮する必要があります。

複式学級においては、これら4つの留意点に加えて次の点について配慮することが大切です。

- ・ 同単元異内容指導において、2年続けて同じテーマの単元を行う場合、同じ活動の繰り返しとないように配慮します。1年目に取り組んだ活動から新たな課題を見だし、次の探究活動につなげる等の工夫が必要です。
- ・ 年度によっては児童数が大きく変動する可能性があります。児童の実態を考慮した計画となるよう、毎年見直していく必要があります。
- ・ 教科等を同単元同内容同程度（A・B年度方式）で行う場合は、年度ごとに総合的な学習の時間と教科等との関連を確認する必要があります。

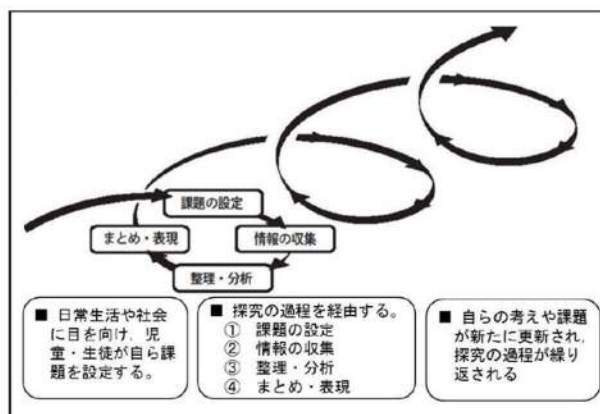
3 指導にあたって

総合的な学習の時間における学習指導のポイントは、「学習過程を探究的にすること」と「他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること」です。複式学級においても、そのポイントは同じです。

(1) 学習過程を探究的にすることについて

総合的な学習の時間では、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を

総合的な学習の時間における児童の学習の姿



考えていくための資質・能力を育成することを目標にしています。

そして、探究的な学習とするためには、「課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現」の探究の過程を経由することが大切です。また、この探究の過程は図のように何度も繰り返され、高まっていく必要があります。

その際、以下の点について配慮が必要です。

① 課題の設定

・児童の発達や興味・関心を適切に把握し、児童が実社会や実生活に向き合う中で、自ら課題意識をもてるようにすることが大切です。その際、教師が意図的な働きかけをすることが重要です。

② 情報の収集

・児童が目的を明確にして自覚的に情報を収集する図書やインターネットの利用、保護者・地域住民へのアンケートやインタビュー、あるいは児童が無自覚のうちに情報を収集する体験活動などを通して、より多くの情報を収集し、適切な方法で蓄積することが大切です。

③ 整理・分析

・収集した情報を吟味する必要性について考えさせることが必要です。そして、比較、分類、関連付けなどして整理・分析し、思考する活動へと高めるようにすることが大切です。そのためにはマップやベン図といった思考ツールを活用することも考えられます。

④ まとめ・表現

・情報を再構築し、それを他者に伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりする学習を行うことで新たな課題が生まれ、深まりのある探究活動に発展します。相手意識や目的意識を明確にすることが大切です。

少人数である複式学級の場合、「課題の設定」において、教師は児童一人一人の考えや課題を十分に把握することが比較的容易であると考えられます。その一方で、「まとめ・表現」においては、少人数であるため活動が制限されてしまう場合があります。学級内での発表だけでなく、他学級や全校、保育園等の地域に向けての発表を取り入れるなどの工夫が望まれます。

(2) 他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすることについて

多様な考えをもつ他者と適切に関わり合ったり、社会に積極的に参画したり貢献したりする資質や能力の育成につながることから、総合的な学習の時間では、他者と協働して課題を解決しようとする学習活動を重視します。そして、何のために学ぶのか、どのように学ぶのかということを児童自身が考え、主体的に学ぶ学習が基盤にあることが重要です。

その際、以下の点について配慮が必要です。

① 多様な情報を活用して協働的に学ぶ

情報交換しながら学級全体で考えたり話し合ったりすることで、探究的な学習の質を高めることが可能となります。

② 異なる視点から考え協働的に学ぶ

児童の見方とは異なる資料を用意したり、専門家へのインタビューを取り入れたりする等の工夫が考えられます。

③ 力を合わせたり交流したりして協働的に学ぶ

集団で実現できる課題を設定したり、地域の人や専門家などと交流する場面を設定したりする等の工夫が必要です。

④主体的かつ協働的に学ぶ

協働性と主体性の両方をバランスよく意識し、それぞれの児童なりに主体的に学ぶこと、協働的に学ぶことのよさを実感できるような工夫が必要です。

少人数である複式学級においては、他者との関わりに限りがあります。多様な情報が活用できるよう、学級の枠を越えた他学年や学校全体による学習活動・学習形態の工夫が必要です。場合によっては、近隣の学校との集合学習も考えられます。その際には、教員同士が各校の総合的な学習の時間の目標、内容等を十分に理解し、事前に計画したうえで学習に臨むことが大切です。

また、他の教科等における間接指導によって培われている自力解決の態度や能力、学び合う力を、総合的な学習の時間における探究の過程に生かして取り組むことを意識し、主体的・協働的に課題を解決していけるように計画することが大切です。

4 学習状況の評価についての考え方

総合的な学習の時間の評価では「児童にどのような力が身に付いたのか」を適切に評価します。その際、各学校が定めた目標及び内容、育成を目指す資質・能力を踏まえることが必要です。また総合的な学習の時間の評価は、各学校で適切に評価の観点を定め、これに基づいて児童の学習活動をよりよく改善するものであることに十分配慮しなければなりません。

評価の観点をもとに単元の評価規準を設定します。単元の評価規準では、児童が取り組む学習活動との関連において、その場面で児童に期待される学習の姿を想定し、具体的に示す必要があります。評価にあたっては、学習活動をとおして育成を目指す資質・能力が適切にはぐくまれ、内容が学ばれているのかを、児童の学習状況からていねいに見取ることが大切です。

複式学級においては、各指導類型に沿った評価規準を設定します。設定にあたっては、学年段階と個々の児童の実態を踏まえる必要があります。同単元同内容指導においては、2学年とも同じテーマ、活動内容及び評価規準を設定し、同程度指導として活動を展開することができますが、異学年児童の学びの違いを発達特性と捉え、発達段階を考慮して評価規準を設定する異程度指導として展開することも可能です。

複式学級であるなしにかかわらず、児童の学習状況の評価を適切に実施するには、多様な評価（方法、場面、評価者等）となっているか、過程の評価（事前の実態把握、途中・終末の学習状況把握、継続的な把握等）が適切に行われているかが大切です。評価の信頼性を高めるために、児童にどのような資質・能力がはぐくまれているのか、何を学び取っているのかを、多様な評価と過程の評価を意識して行い、それを指導に役立てる必要があります。加えて、教師が児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価することにより、児童自身が学習したことの意義や価値を実感できるようにすることも肝要です。

中学年総合的な学習の時間(折衷案:同単元異内容同程度、同単元同内容同程度) 年間指導計画(例)

		4月	5月	6月	7月	8・9月			10月	11月	12月	1月	2月	3月
共通 内容	単元名 (予定時数)	〇〇川探検隊(35時間)					A 年度	単元名 (予定時数)	伝えよう〇〇町の今(35時間)					
	目標	ふるさとの川の体験活動(観察・調査)を通して、〇〇川には多くの生き物や植物がいることを知り、生き物や植物にすすんで関わったり、地域の方と〇〇川の自然を守っていかうとしたりする。						目標	〇〇町についての情報を集め、その分析を行い、テレビ番組を製作することを通して、自分たちの町のよさや課題を再認識し、地域に誇りと愛情を持つとともによりよい地域にしようとする。					
	主な 学習活動	・3年生は4年生から〇〇川の話聞き、〇〇川への関心を高める。 ・4年生は地域の方から話を聞き、〇〇川の環境への関心を高める。 ・〇〇川探検に行き、3年は魚をとる活動を、4年は環境を調べる活動を行う。 ・探検からの気づきをカードに書き出し、さらに調べたい課題や行いたい活動を考える。 ・3年: 〇〇川水族館をオープンさせよう ・4年: 〇〇川キラキラ作戦を考えよう ・図書やインターネット、家族へのインタビュー等から情報を集める。 ・表やマップに調べたことをまとめ、今後の取組について考える。 ・地域の人や専門の人に話を聞く。(3年: 水族館、4年: 環境課) ・水族館とキラキラ大作戦を行う。 ・環境のことを考えながら魚を元の川に放す。 ・学習を振り返り、感想文にまとめる。						主な 学習活動	・社会科「身近な地域や市」と関連させながら、〇〇町について知っていることを付箋に書き出す。 ・付箋を出し合いながら、〇〇町のよさや課題について話合う。 ・〇〇町のよさや課題は何か、町探検やインタビュー、アンケートによる調査を行い、さらに情報を集める。 ・集めた情報の序列化(ランキング)を通して、〇〇町のよさと課題について考える。 ・テレビ番組作りをする。 ・テレビ番組「〇〇町の今」の発表会をする。 ・学習を振り返り、レポートにまとめる。					
		※足りない情報はさらに調査したり、新たな課題を提示したりするなど、探究のスパイラルを大切にしたい指導を工夫します。												
		教科等との 関連	国語:「話すこと・聞くこと」「書くこと」 社会:「身近な地域や市」「地域の人々の生産や販売」「地域の人々のと生活に必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理」「災害及び事故の防止」「地域の人々の生活」「県の様子」 算数:「表やグラフ」「資料の分類整理」 理科:「身近な自然の観察」「月と星」 道徳: A(3)、A(5)、B(8)、B(9)、D(20)											
	主な 学習活動	※同単元で2年間行う場合、3年生に4年生が話をして関心を高めたり、3年生が困ったときには4年生にアドバイスを求めたりしながら進めることが考えられます。 ※4年生には、同じ活動とならないように、前年度の活動で出された課題を解決していく展開とすることが大切です。					B 年度	単元名 (予定時数)	私たちの知らない昔の〇〇町(35時間)					
		目標	高齢者の方々から、地域での昔の生活や苦労についての話を聞くことで、地域に愛着を持つとともに自分たちの生活のあり方を見直すことができる。											
		主な 学習活動	・社会科「地域の人々の生活」と関連させ、昔の〇〇町の写真を提示することで、学習への関心を高める。 ・地域のお年寄りから昔の話を聞き、さらに調べたいことを考える。 ・〇〇町の昔について郷土資料館で調べたり、地域の方にインタビューをしたりする。 ・調べたことを物、設備、自然等の項目に分けた表にまとめ、紹介したいことを考える。 ・生活の知恵や生き方についてパンフレットにまとめ、学習したことを全校に伝える。 ・学習を振り返り、感想発表会を行う。											
		教科等との 関連	国語:「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」 社会:「身近な地域や市」「地域の人々の生産や販売」「地域の人々のと生活に必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理」「災害及び事故の防止」「地域の人々の生活」「県の様子」 算数:「長さ」「重さ」「体積」「表やグラフ」 理科:「身近な自然の観察」「季節と生物」 道徳: A(3)、A(5)、B(8)、B(9)、C(16)											

※他教科等で習得した知識・技能等を活用することを意識して計画することが重要です。
 ※3年生には初めての総合的な学習の時間の学習となるため、学習の進め方などを丁寧にすることが大切です。

※児童が様々な課題に取り組めるように、A・B年度で内容を変えて設定することが考えられます。
 ※教科等との関連については、年度によって確認する必要があります。

17 特別活動

(同内容同程度)

1 複式学級の特性を生かす

特別活動では、第1学年から第6学年まで共通の目標になっています。特別活動の内容は、学級活動、児童会活動、クラブ活動及び学校行事から構成されています。この四つの内容は、集団の単位、活動の形態や方法、時間の設定などにおいて異なる特質をもっており、それぞれが固有の意義をもっています。しかし、これらは、最終的に特別活動の目標を目指して行われ、相互に関連し合っていることを理解し、児童の特質・能力を育成する活動を効果的に展開できるようにすることが大切です。

特別活動の計画・実施にあたっては、学校独自の創意・工夫が大切です。複式学級ならではの児童同士の間密な人間関係、異年齢の児童が共に生活する学級、全校児童を対象とした行事等の企画や、家庭や地域との連携のしやすさなどの特性を生かしながら、特色ある活動を計画します。特に、以下の活動については、複式学級の特性を生かしつつ、重点的に取り組む必要があります。

- (1) 合意形成を図ったり、意思決定をしたりする活動
- (2) 自分たちできまりをつくって守る活動
- (3) 異年齢集団や多様な他者との交流や対話をする活動
- (4) 振り返り活動

2 年間指導計画を作成するための留意点

特別活動の指導に当たっては、(1)「知識及び技能」が習得されること、(2)「思考力、判断力、表現力等」を育成すること、(3)「学びに向かう力、人間性等」を涵養することが偏りなく実現されるよう、単元など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが重要です。

特別活動の指導計画は、学校の教育目標を達成する上でも重要な役割を果たしているため、調和のとれた特別活動の全体計画と各活動・学校行事の年間指導計画を全教職員の協力の下で作成することが必要です。全体計画及び各活動・学校行事の年間指導計画は、次の点に留意して作成します。

- (1) 学校の創意工夫を生かす
- (2) 学級や学校の実態や児童の発達などを考慮する
- (3) 各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間などの指導との関連を図る
- (4) 児童による自主的、実践的な活動を助長させるようにする
- (5) 家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫する

3 実際の指導における留意点

(1) 学級活動

複式学級では、特に「様々な集団活動を通す」という特別活動の特質を意識しながら実践していくことが大切です。

○低学年や中学年における学級活動は、学級を単位とした議題や題材を取り上げます。しかし、複式学級は少人数であり、学級の児童数が少ないため、学級生活における課題に限られる場合があります。高学年と同様に、取り上げる議題や題材は学校生活全体や幼保小連携活動等、広がりをもたせるよう工夫することが大切です。

○複式学級にあっては学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」「(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」の内容の特質に応じて、学級の実態に合った議題や題材を工夫する必要があります。

(2) 児童会活動

- 異年齢集団による自発的、自治的な活動の場や機会を多く設定し、高学年のリーダーシップを育て、学校集団としての活力を高め、楽しく豊かな学校生活をつくるよう努めます。
- 児童の自発的、自治的な活動において、児童数が少ないことにより教師に依存してしまうことのないよう、活動に関しては可能な限り児童に任せるという態度が大切です。
- 児童会の計画や運営は、主として高学年の児童が行うこととなっていますが、児童の発達の段階などを考慮しながら、中学年の児童が運営に参加できるように配慮したり、低学年の意見が児童会に反映されるよう工夫したりすることも考えられます。

(3) クラブ活動

- 児童の自発的、自治的な活動になるよう、教師の適切な指導の下、年間や学期、月ごとなどに上学年の児童が中心になって活動計画を立て、役割を分担し、協力して運営に当たることが大切です。
- 小規模校においては、第3学年や低学年からクラブ活動に参加できるようにしたり、その人数に見合ったクラブの数を組織したりすることが考えられます。その場合、特に児童の発達の段階などを考慮し、学級や学年が異なる仲間と協力して活動を進めることができた喜びなどが実感できるよう指導します。
- 必要に応じて社会教育施設をはじめとする学校外に活動の場を求めたり、地域の人々をはじめとする専門的な外部講師の協力を得たりするなど、家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用を工夫することによって、様々な人との出会いを大切にした活動を工夫することが考えられます。

(4) 学校行事

- 郷土に愛着を深める観点から、地域の伝統や文化に触れる機会を積極的に設定します。
- 学校行事の指導計画作成に関して、地域社会との連携を図るうえで、次のことに考慮します。
 - ・学校行事の年間指導計画の立案にあたっては、地域の実態に即した特色ある行事の創造を意識し、地域社会との連携を生かすことが大切です。連携を進めるために、例えば地域社会の人々が参観しやすい期日に授業公開日を設定したり、地域の伝統文化に触れる活動や地域の行事との関連を図ったりすることが考えられます。
 - ・勤労生産・奉仕的行事などを実施する際には、積極的に保護者や地域の関係団体と連携をとります。例えば幼稚園や保育所、介護施設などと交流し、多様な人々と人間関係を築こうとする態度の育成を図ります。
 - ・学校行事としてのねらいを地域の方に示しながら、学校行事としてふさわしい活動にします。

4 複式学級における学級活動の年間指導計画作成の留意点

学校や学級、児童の実態に即し、学校行事との効果的な連携を図りながら計画を立てます。また、学級会の「話し合い活動」の指導は、低学年、中学年、高学年の系統性をもって取り組みます。

児童の自主性を伸ばし、学校生活を一層楽しくするために学級活動(1)に重点を置き、低・中・高学年の実態や発達の課題を踏まえて指導内容の重点化を図ることが大切です。特に、学級活動(2)や(3)については、取り上げる指導内容の重点化を図り、前年の内容と重複しないよう系統性を踏まえ、年間指導計画を適切に設定する必要があります。

低学年学級活動（同内容同程度）年間指導計画（例）

月	議題・題材		内容	活動形態	学校行事
	A 年度	B 年度			
4	新しい学年になって・学級のめあてをきめよう		(3)ーア	話	・始業式、入学式
	つくろう係活動		2 年生には、1 年生を温かく迎え、一緒に学校生活を過ごす意識が高まるよう働きかけ、1 年生が集団で活動する楽しさを味わい、安心して学校に通えるようにします。		
	正しい道の歩き方	登下校の			
	楽しい給食				
5	学校のきまりを知ろう				
	クラス集会をしよう 1（計画・実践・振り返り）		(1)ーア	話	
	そうじ上手になろう		(3)ーイ		
	図書館と仲良くなろう		教師が司会役となり、「①課題発見」→「②解決方法の話合い」→「③解決方法の決定」→「④決めたことの実践」→「⑤振り返り」のような学習過程を経験することで、話合いの進め方を理解することも大切です。低学年では、1 単位時間の前半で①～③の話し合いを行い、後半は「④決めたことの実践」「⑤振り返り」を行うことも考えられます。		
6	議題箱から学級会・きまったこと				
	雨の日の過ごし方				
	言葉づかいを考えよう	友だ			
7	クラス集会の計画を立てよう 2				
	クラス集会をしよう 2				
	楽しい夏休み				
9	工夫しよう係活動		(3)ーイ		・始業式
	運動会を盛り上げる工夫をしよう		(1)ーウ	話	・運動会
	議題箱から学級会・きまったことに取り組もう 2		(1)ーア	話集	
10	楽しい遠足にしよう		(2)ーイ	話	・遠足
	本をたくさん読もう		複式学級では、学年差や生活経験の差があります。児童一人一人の実態を十分把握し、指導していくことが大切です。		
	議題箱から学級会 3				
11	きまったことに取り組もう 3		(1)ーア	集	・学習発表会
	学習発表会を成功させよう		(1)ーウ	話	
	整理整とんをしよう	忘れ物 0 をめざそう	(2)ーア	話	
12	クラス集会の計画を立てよう 3		(1)ーア	話	・終業式
	クラス集会をしよう 3		学級活動の内容【(1)ア～ウ、(2)ア～エ、(3)ア～ウの 10 項目】は全て、いずれの学年においても取り扱います。		
	かぜを予防しよう				
1	工夫しよう係活動		(1)ーイ	係	・始業式
	いろいろ食べよう	給食は栄養がいっぱい	(2)ーエ		
	議題箱から学級会 4		(1)ーア	話	
2	きまったことに取り組もう 4		(1)ーア	集	・1 日入学
	たいせつなからだ	さそわれたらどうしよう	(2)ーウ	議題によって内容や活動形態が変わることがあります。	
	6 年生を送る会の準備をしよう		(1)ーア		
3	クラス集会の計画を立てよう 4		(1)ーア		
	クラス集会をしよう 4		(1)ーア	集	・卒業式、修了式
	次の学年に向けて		(3)ーア	話	

「議題箱から学級会」の議題例

「学級の〇〇を作ろう（マーク、キャラクター、歌、旗など）」 「係の発表会をしよう」
「夏休み発表会をしよう」 「〇〇（学級の問題など）を解決しよう」
「学習発表会であることを考えよう」 「送る会の出し物を決めよう」
「1日入学のメニューを決めよう」 「児童総会の議題を話し合おう」 「学級目標を振り返ろう」

※ 中・高学年の年間指導計画（例）の留意事項（吹き出し等）も併せてご確認ください。

中学年学級活動（同内容同程度）年間指導計画（例）

月	議題・題材		内容	活動形態	学校行事
	A 年度	B 年度			
4	新しい学年になって		(3)ーア	話	・始業式、入学式 ・学年集会 下学年の児童の発言も尊重し、全員参加の話し合いができるようにします。
	学級のめあてをきめよう				
	つくろう係や当番活動				
	クラス集会の計画を立てよう 1				
5	そうじの仕方を考えよう		(3)ーイ	話	・家庭訪問 1 単位時間を使って話し合い、「④決めたことの実践」（集会活動等）は休み時間や放課後を利用することもできます。
	学校のきまりを守ろう				
	家庭学習について考えよう				
	バランスの良い食事	食生活を考えよう	(2)ーエ	話	
6	議題箱から学級会 1		(1)ーア	話	「①課題発見」～「⑤振り返り」のような学習過程を繰り返し経験することで児童が主体的に話し合うことができるよう指導します。
	きまったことに取り組もう 1		(1)ーア	集	
	友だちのよいところを見つけよう	友だちのことを			
7	野菜を食べよう	好き嫌いをなく			
	クラス集会の計画を立てよう 2				
	クラス集会をしよう 2				
9	係や当番活動を見直そう		(3)ーイ		・始業式 ・運動会
	運動会を盛り上げる工夫をしよう		(1)ーウ	話	
	議題箱から学級会 2				
10	きまったことに取り組もう 2				よりよい運動会をめざして、高学年と協力し、主体的にかかわってこうという意欲が高まるよう働きかけます。
	むし歯を予防しよう	生活リズム			
	議題箱から学級会 3		(1)ーア	話	
11	きまったことに取り組もう 3		(1)ーア	集	・学習発表会
	学習発表会を成功させよう		(1)ーウ	話	
	図書館を利用しよう		(3)ーウ		
12	教室をきれいにしよう	室内での過ごし方	(2)ーア	話	・終業式
	クラス集会の計画を立てよう 3		(1)ーア	話	
	クラス集会をしよう 3		(1)ーア	集	
1	係や当番活動を充実させよう		(1)ーイ	係	・始業式
	丈夫なからだをつくろう	ウイルスからからだを守ろう	(2)ーウ		
	みんなで協力	相手の気持ちを考えて	(2)ーイ		
2	議題箱から学級会 4		(1)ーア	話	・1 日入学
	きまったことに取り組もう 4		(1)ーア	集	
	男女のからだの変化	心とからだの成長	(2)ーウ		
3	クラス集会の計画を立てよう 4		(1)ーア	話	・6 年生を送る会 ・卒業式、修了式
	クラス集会をしよう 4		(1)ーア	集	
	次の学年に向けて		(3)ーア	話	

「議題箱から学級会」の議題例

「学級の〇〇を作ろう（マーク、キャラクター、歌、旗など）」 「係の発表会をしよう」
「夏休み発表会をしよう」 「〇〇（学級の問題など）を解決しよう」
「お世話になった〇〇さんへ感謝の気持ちを伝えよう」 「学習発表会の内容を考えよう」
「送る会の出し物を決めよう」 「児童総会の議題を話し合おう」 「学級目標を振り返ろう」

※ 低・高学年の年間指導計画（例）の留意事項（吹き出し等）も併せてご確認ください。

高学年学級活動（同内容同程度）年間指導計画（例）

月	議題・題材		内容	活動形態	学校行事
	A 年度	B 年度			
4	新しい学年になって・学級のめあてをきめよう		(3)ーア	話	・始業式、入学式
	つくろう係や当番活動		学級のめあてに合わせて、6年生は最上級生として学校全体をリードしていく自覚、5年生は高学年として6年生と協力していく心構えについて、自分の目標を自己決定できるようにします。		
	安全な自転車の乗り方	登下校の安全			
	クラス集会の計画を立てよう 1				
5	クラス集会をしよう 1				
	そうじの仕方を工夫しよう				
	学校のきまりを考えよう		(2)ーア	話	
6	栄養のバランスを考えよう	給食に感謝しよう	(2)ーエ	話	
	議題箱から学級会・きまったことに取り組もう 1		(1)ーア	話集	
	家庭学習の仕方を工夫しよう				
7	高学年らしさとは	自分の	児童が主体的に話し合い、合意形成や意思決定ができるよう指導します。「④決めたことの実践」は、休み時間や放課後等、課外の時間に実施することも考えられます。		
	クラス集会の計画を立てよう 2				
	クラス集会をしよう 2				
9	夏休みの計画を立てよう		(3)ーア		
	係や当番活動を見直そう		(3)ーイ		・始業式
	運動会を盛り上げる工夫をしよう		(1)ーウ	話	・運動会
10	議題箱から学級会 2		(1)ーア	話	
	きまったことに取り組もう 2		(1)ーア	集	・遠足
	宿泊研修に出かけよう	修学旅行に出かけよう	(3)ーイ	話	
11	タバコと健康	飲酒や薬物と健康	(2)ーウ	話	
	議題箱から学級会・きまったことに取り組もう 3		(1)ーア	話集	・学習発表会
	学習発表会を成功させよう		(1)ーウ	話	
12	上手な情報の集め方	著作権に気をつけよう	(3)ーウ		
	学校をきれいにしよう	室内での安全な過ごし方	(2)ーア	話	・終業式
	クラス集会の計画を立てよう 3		(1)ーア	話	
1	クラス集会をしよう 3		(1)ーア	集	
	係や当番活動を充実させよう		(1)ーイ	係	・始業式
	病気から身体を守ろう	感染症の予防	(2)ーウ		
2	楽しい給食の工夫	健康と食事	(2)ーエ		
	議題箱から学級会 4		(1)ーア	話	・1日入学
	きまったことに取り組もう 4		(1)ーア	集	
3	気持ちの良い言葉	相手の	6年生は中学校に向けての意欲、5年生は最上級生になり、学校全体をリードしていく自覚が高まるようにします。		
	おやつとり方	朝ごはん			
	感謝の気持ちを伝えよう				
	次の学年に向けて		(3)ーア	話	

「議題箱から学級会」の議題例

「児童会の〇〇を作ろう（マーク、キャラクター、歌、旗など）」 「係の発表会をしよう」
「1年生を迎える会を計画しよう」 「〇〇（学級・学校の問題など）を解決しよう」
「運動会（学習発表会）のスローガンに決め方を考えよう」 「全校集会を企画しよう」
「児童総会の準備をしよう」 「学級目標を振り返ろう」

※ 低・中学年の 年間指導計画（例）の留意事項（吹き出し等）も 併せてご確認ください。

◇参考文献・引用文献等

- 小学校学習指導要領（文部科学省，平成 20 年 3 月告示）
- 小学校学習指導要領解説総則編（文部科学省，平成 20 年 8 月）
- 小学校学習指導要領解説各教科編（文部科学省，平成 20 年 8 月）
- 小学校複式学級指導資料理科編（文部省，平成 6 年）
- 小学校複式学級指導資料生活編（文部省，平成 6 年 12 月）
- 小学校複式学級指導資料音楽編（文部省，平成 7 年 10 月）
- 小学校複式学級指導資料家庭編（文部省，平成 7 年 10 月）
- へき地教育資料第 52 号（文部省，平成 7 年 3 月）
- へき地教育資料第 51 号（文部省，平成 5 年 3 月）
- 文部科学省学校基本調査
- 教育の未来を拓く学習指導要領の変遷
（別冊初等教育資料，文部科学省教育課程課／幼児教育課，東洋館出版社，平成 25 年 5 月 22 日）
- 改訂複式学級の指導（島根県教育委員会，昭和 61 年度再版）
- 平成 27 年度各教科の指導の重点（島根県教育委員会，平成 27 年 3 月）
- 学習評価を生かした授業改善、授業づくりのためのハンドブック[小学校]（島根県教育委員会，平成 23 年 3 月）
- 小学校・中学校教育課程の編成・実施の手引－Q&A－（島根県教育委員会，平成 22 年 3 月）
- 複式学級指導事例集第 20 集（島根県教育委員会，平成 9 年 4 月）
- 国と島根の教育（島根県教育委員会，昭和 40 年、昭和 45 年）
- 島根の教育（島根県教育委員会，昭和 50 年、昭和 55 年、昭和 60 年、平成元年、平成 5 年、平成 10 年、平成 15 年、平成 20 年、平成 25 年、平成 27 年）
- 複式学級における学習指導の在り方【改訂版】（北海道立教育研究所・北海道教育大学，平成 24 年 3 月）
- 複式学級を有する学校のために－複式学級指導資料－（宮崎県教育委員会，平成 23 年 3 月）
- 複式学級指導の手引（天草郡市教育委員会連絡協議会，平成 22 年 3 月）
- へき地・複式教育ハンドブック（一般編）（青森県教育委員会，平成 19 年 3 月）
- 入門 複式授業－始めよう複式学習の指導－
（岩手大学教育学部 岩手県小規模・複式学校教育研究連盟，平成 17 年 3 月）
- 岩手の小規模・複式指導ハンドブック－生活・音楽・図工・家庭・体育－（岩手県教育委員会，平成 16 年 1 月 9 日）
- 平成 26 年版（平成 25 年度実践事例集）「明日を拓く」－へき地・複式・小規模校からの発信－ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を築く心豊かな子どもの育成－（全国へき地教育研究連盟，平成 26 年 3 月 31 日）
- ふるさと発『生きる力』を育む教育の創造－へき地・複式・小規模学校の課題解明へのアプローチ－
（全国へき地教育研究連盟，平成 13 年 8 月 1 日）
- へき地・複式・小規模学校 Q&A－新学習指導要領に添う新しい研究推進のために－
（全国へき地教育研究連盟，平成 12 年 9 月 25 日）
- これだけは知っておきたいへき地教育ガイドブック（全国へき地教育研究連盟，平成 7 年 8 月 20 日）
- へき地・小規模・複式学校の特性を生かした学習指導（指導方法）（全国へき地教育研究連盟，平成元年 3 月 31 日）
- へき地・複式教育ハンドブック（全国へき地教育研究連盟，昭和 60 年 1 月 25 日）
- 学習指導方法の工夫・改善（全国へき地教育研究連盟，平成 10 年 10 月 10 日）
- 複式教育ハンドブック－異学年が同時に学び合うよさを生かした学習指導－
（広島大学附属東雲小学校，平成 22 年 6 月 25 日）
- 複式学級指導法－単式学級内の学力差に対応した現場の工夫にも役立つ指導法－
（長崎・鹿児島・琉球 3 大学連携研究「複式学級指導法」編集委員会編，東京教学社，平成 21 年 3 月 31 日）
- 小学校家庭科の授業づくりと評価（筒井恭子，明治図書，平成 24 年 2 月）
- 平成 20 年改訂小学校教育課程講座家庭（長澤由喜子・鈴木明子，ぎょうせい，平成 20 年 11 月 15 日）
- へき地・複式教育の基礎的研究－社会科を中心に－（有馬毅一郎，平成 14 年 3 月 2 日）
- 小は大をかねる（玉木国寿，平成 13 年 12 月 17 日）
- 複式指導における年間指導計画案について－作成の方針・使用上の留意点－（光村図書出版）